

継続的な改善活動のために！

2007

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書（抜粋）]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 石川 憲一

周知のように、'70年代を境目として我が国における大学を始めとする高等教育は大きく変化し、最近に至ると修学年齢世代の約50%が大学・短大へと進学する所謂「大学教育のユニバーサル化現象」が生じてきております。このような状況は一面においては、資源小国である我が国にとって人材と言う「財」を然るべく育成し、国民の知的水準を向上することは望ましいことではありますが、一方では卒業生の質的保証や当該大学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。

金沢工業大学は、開学以来42年の歴史を着実に刻み、'04年度より工科系単科大学から、工学・環境・情報系より成る3学部15学科体制を有する工科系総合大学に移行いたしました。このような展開の中であって、'95年度以来実践して参りました教育改革の成果の内、外部評価の一環として'02年度には機械系並びに材料系、'03年度には環境系並びに建築系の教育プログラムに対して『日本技術者教育認定機構：JABEE』の認定を受け、加えて'04年度に大学基準協会が実施した認証評価にて「基準に適合」との認定を受けることが出来ました。これからは、全ての教育プログラムのJABEE認定を目指すと共に、日本経営品質賞等の視点やメジャーの異なる外部評価を受ける予定であります。そして、'03年度に文部科学省が実施いたしました『特色ある大学教育支援プログラム：GP』に「工学設計教育とその課外活動環境」が採択されたことを受けて、更に本学教育改革を推進させるために、'96年並びに'02～'06年に引き続いて在学生・卒業生・教職員の各位に対して8種類のアンケートを依頼致しました。（ただし、今回は企業の人事担当者の方々に対するアンケートは実施しておりません。）

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生の質的保証や在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、衷心より感謝申し上げる次第であります。

目次

本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

< 1 >	本調査の全体像	1
< 2 >	KITの満足度	5
< 3 >	分野別の満足度	15
< 4 >	満足度の変化	31
< 5 >	分野別の詳細分析	41
< 6 >	サービスや機能に関して	57
< 7 >	人材の能力に関して	65
< 8 >	達成度に関して	73
< 9 >	勉強への取り組み姿勢と授業満足度の指標による分析	81
< 10 >	新入生アンケートの分析結果	101
< 11 >	教職員アンケートの分析結果	119
< 12 >	全体サマリー	131
< 13 >	回答者(在学生、卒業・修了生)のプロフィール	153
< 14 >	フリーアンサー集	163
< 15 >	調査票見本	331

< 1-1 > 調査の目的と概略

調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価、満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- そして、上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 設問に関してはできるだけ属性間の差を少なくして、比較分析が行いやすいように調査設計の見直しを行った。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が5回目となる。その節目として今回は分析の視点を少し変え、定量的なデータは直感的に分かりやすく集計し、自由記述などの定性的なデータからはより具体的な方策が導き出せるような内容とした。

調査方法

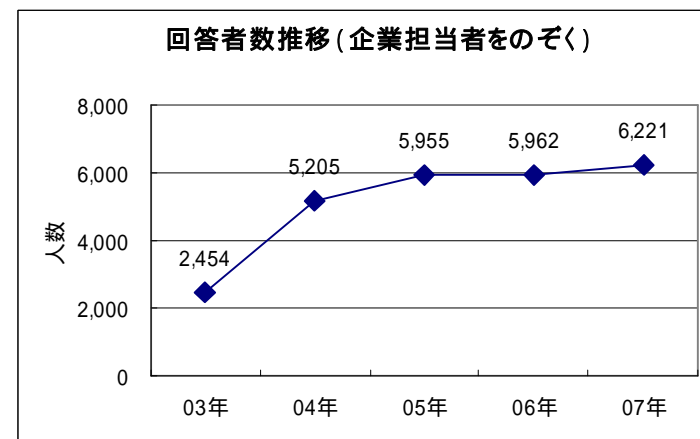
調査時期 2007年2月～4月

調査方法 下記のように属性に応じて回収ボックスによる回収と郵送による回収によって実施した。
なお、全て『無記名式』とした。

回収数 属性別の回収数は下記の通りである。2005年の調査より、在学生への調査期間を年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
今回の全回収数は6,221サンプル

調査主体 学校法人 金沢工業大学

集計分析 (有)アイ・ポイント

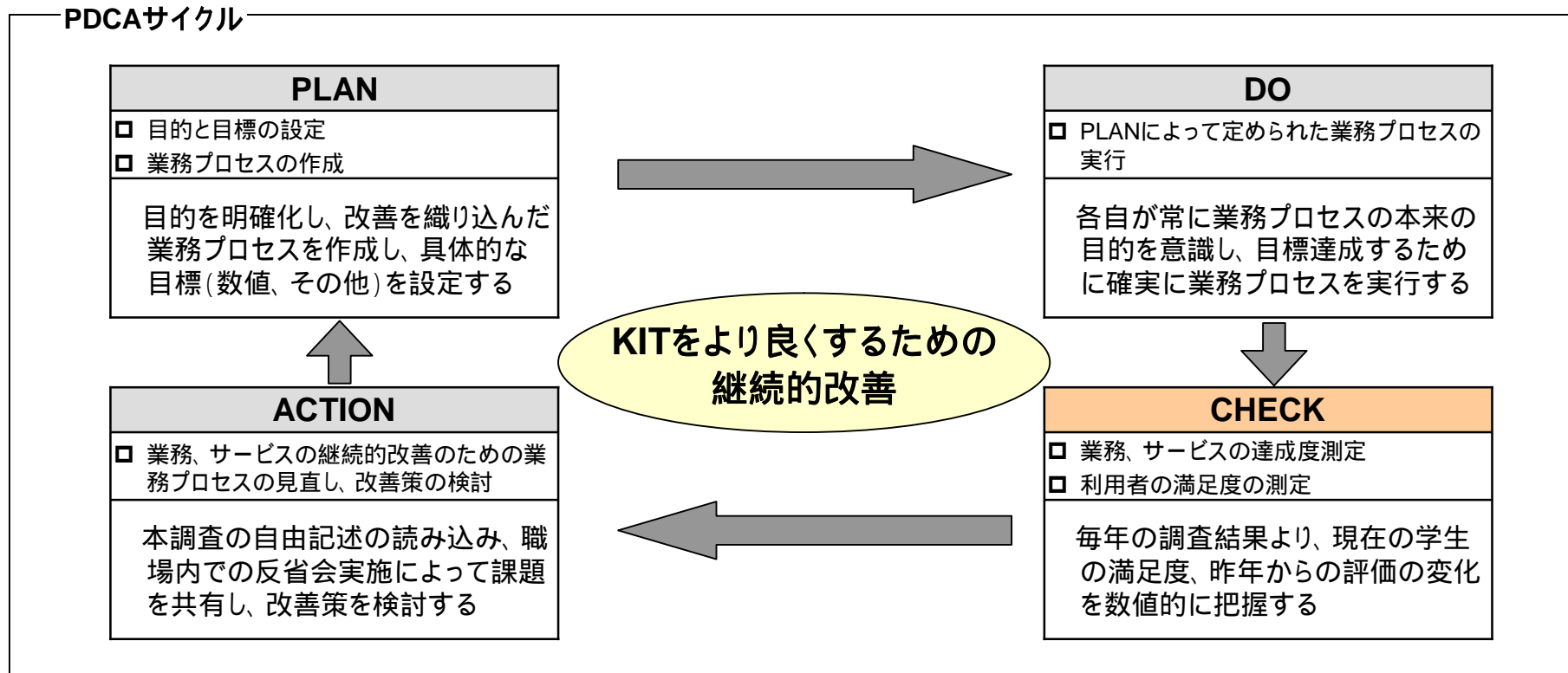


調査対象

対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	調査実施方法	備考
新入生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	オリエンテーションで配布、回収ボックスで回収	04年より新学科体制で集計
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	担当教員に配布、各クラスで回収	05年より新学科体制で集計
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	担当教員に配布、各クラスで回収	06年より新学科体制で集計
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	担当教員に配布、回収ボックスで回収	07年より新学科体制で集計
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	研究室単位で配布、回収ボックスで回収	グラフでは「卒・修直前」と略
卒業・修了生	平成16年度卒業・修了生	163	107	97	80	90	郵送にて配布し、返信用封筒で郵送にて回収	入社1年経た卒業生 「卒・修生」と略
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	個別に配布して、回収ボックスで回収	
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	個別に配布して、回収ボックスで回収	
企業担当者	KIT卒業生が就職した企業	実施せず	実施せず	485	実施せず	実施せず		07年は実施していない
合計		2,454	5,205	6,440	5,962	6,221		

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

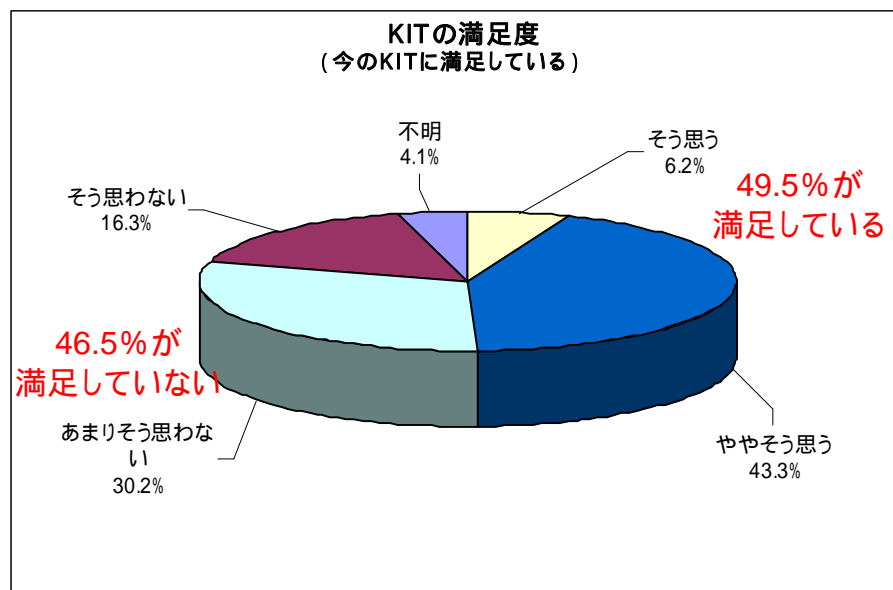
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには、巻末の「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年からの改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

< 2-1 > KITの満足度と経年変化

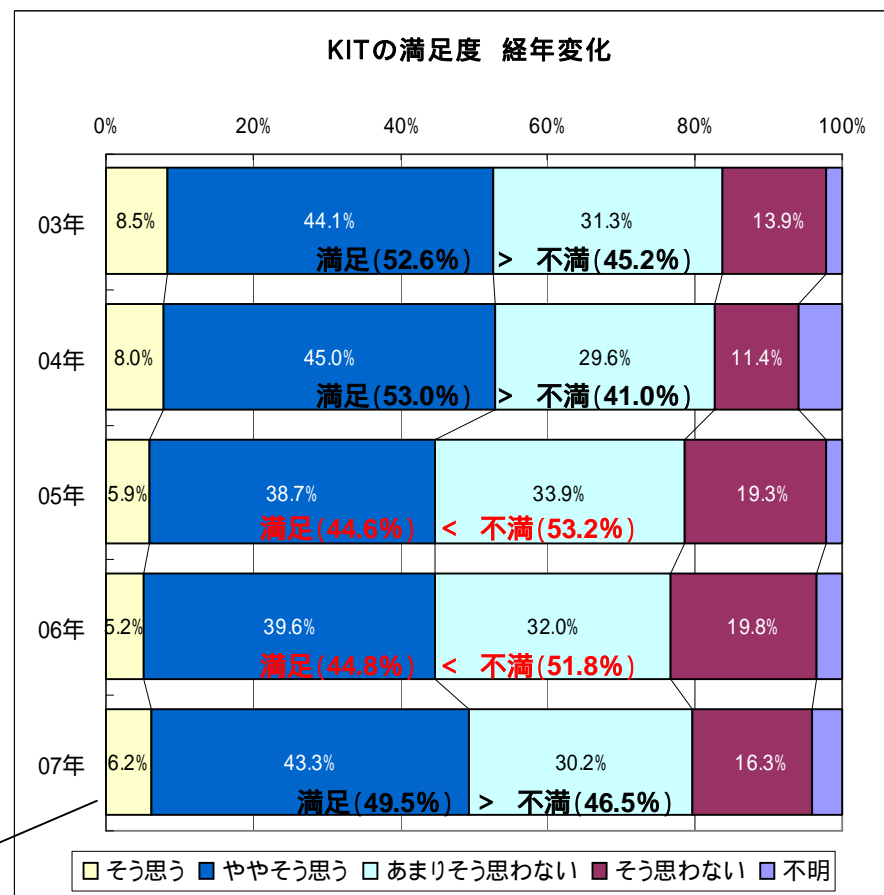
- 基本的な指標として今回(2007年2月～4月)の段階での学生の「KIT満足度」を確認した。なお、ここでは1年次生修了時点、2年次生修了時点、3年次生修了時点、卒業・修了直前の4学年の在学生のみを対象としており、卒業・修了生は含んでいない。
- 「今のKITに満足しているか?」という質問で満足度を聞いたが、「そう思う」は6.2%とそれほど多くなかったが、「ややそう思う」の43.3%と合わせると、49.5%とほぼ半数はKITに満足していると捉えることができる。
- 一方、「そう思わない」は16.3%、「あまりそう思わない」は30.2%で、合わせると46.5%がKITに不満を持っていた。満足しているという回答よりも少ないものの、その差はわずか3ポイントであった。
- 03年からの変化に関しても在学生だけで比較を行ったが、05年、06年は「不満」という意見の方がやや多く、残念ながら06年には「不満」の方が7ポイントも多かった。
- しかし、07年には3ポイントではあるが「満足」の方が上回る結果となり、在学生の満足度は高まっていると言える。ただし、「満足」と「不満」の意見はほぼ同数であり、安心できる状態ではないと言える。



満足(49.5%) > 不満(46.5%)

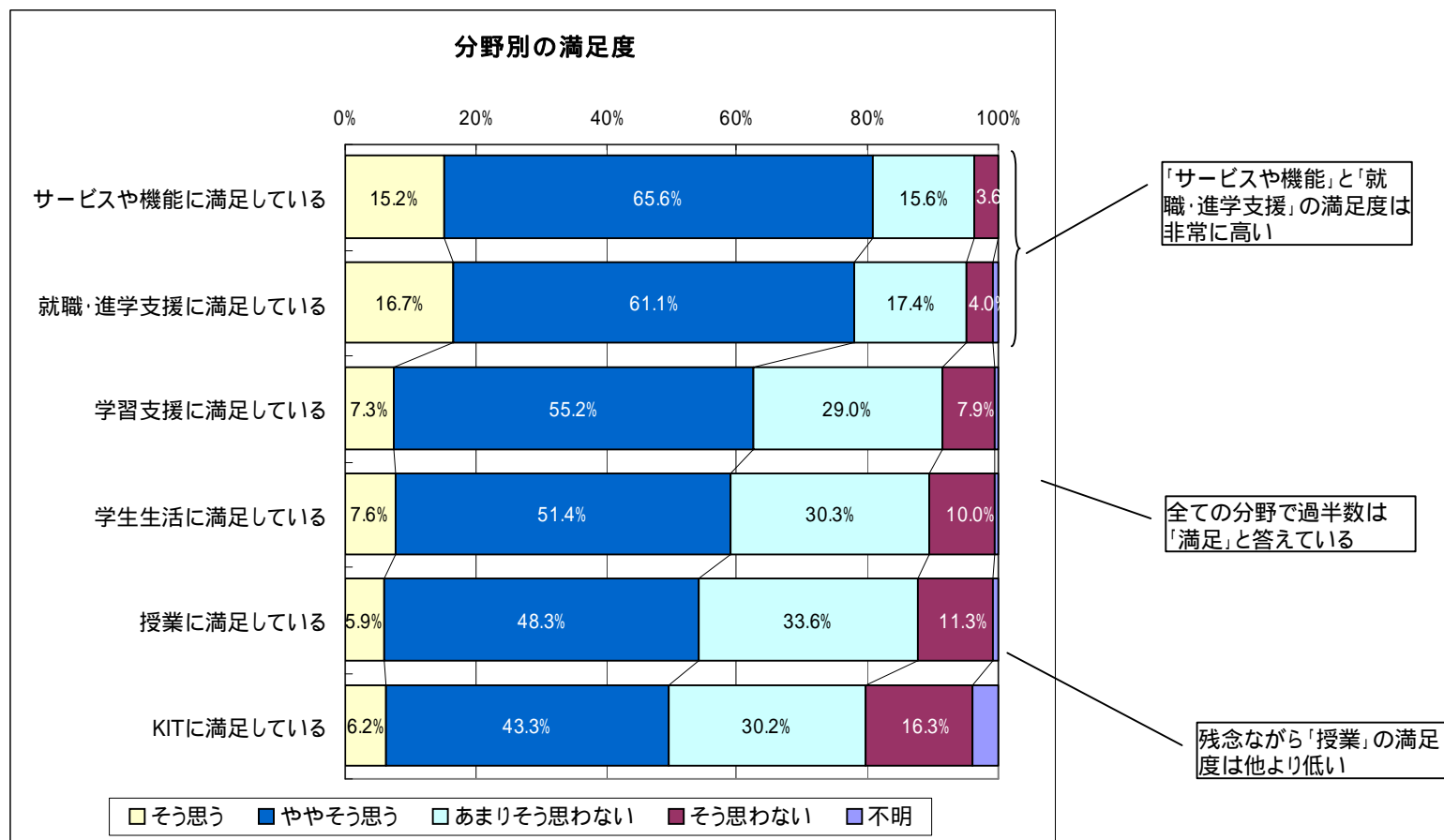
「満足」が「不満」を上回った

前回までは「不満」の方が多かったが、今回は「満足」が上回った。



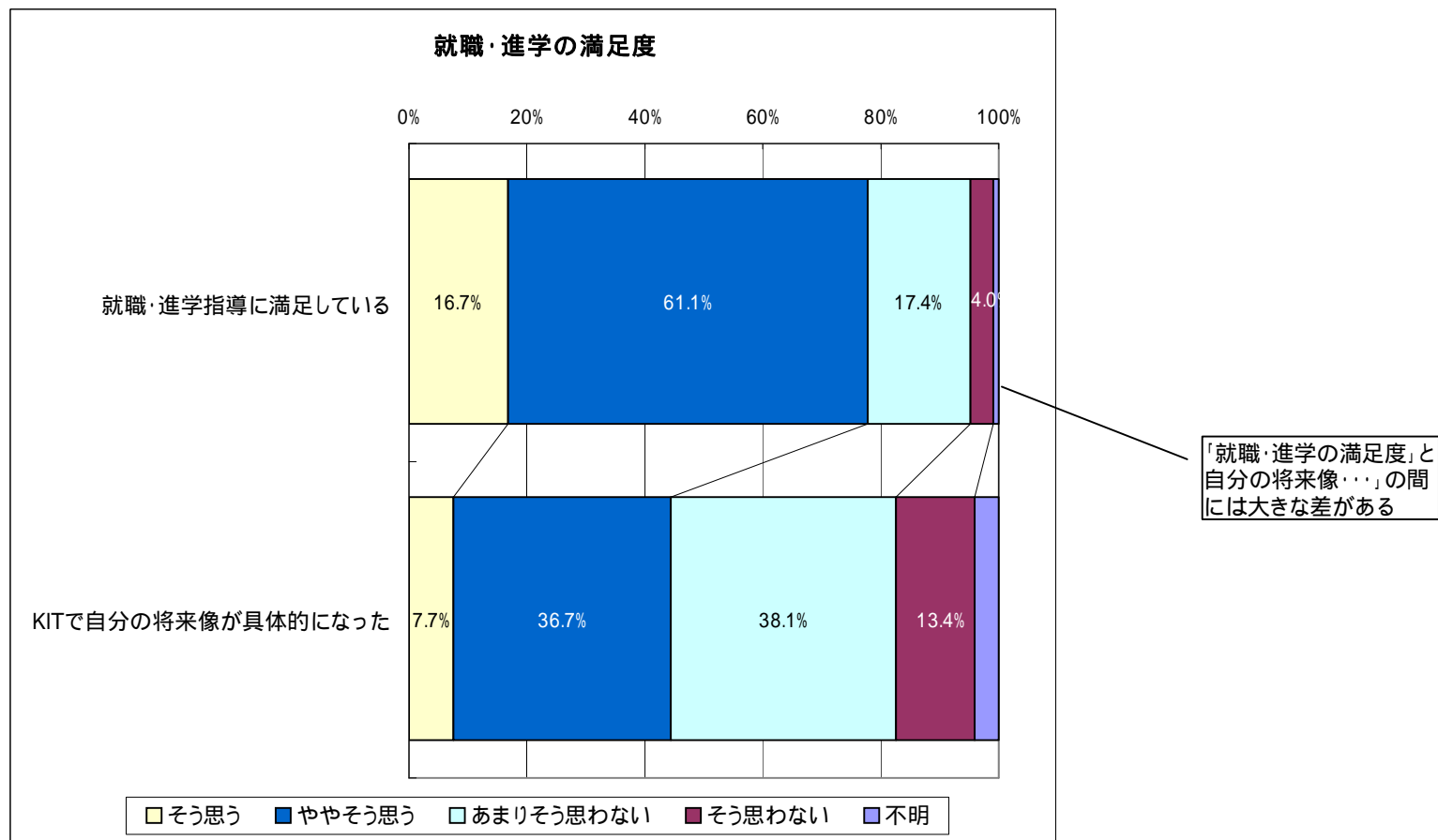
< 3-1 > 分野別の満足度比較

- 分野ごとの満足度を見ると、最も満足度が高かったのは「サービスや機能」であり、「そう思う」が15.2%、「ややそう思う」が65.6%と、合わせると8割の在学生在が大学の「サービスや機能」に満足しており、満足度は非常に高いと言える。
- また、主に「卒業・修了直前」への質問がメインであるが、「就職・進学支援」の満足度も高く、77.8%が満足していた。
- 上記に次いで「学習支援」では62.5%が満足、「学生生活」では59.0%、「授業に満足」は54.2%が満足となっており、どの分野でも過半数は満足と答えていた。ただし、この3分野では決して満足度は高いと言えるものではない。
- そして、横並びで比較することは難しいが、分野別では残念ながら「授業」の満足度が最も低かった。大学の機能として最も重要な「授業」の満足度が低いということは大きな問題であり、今後、しっかりとした改善が必要と言える。



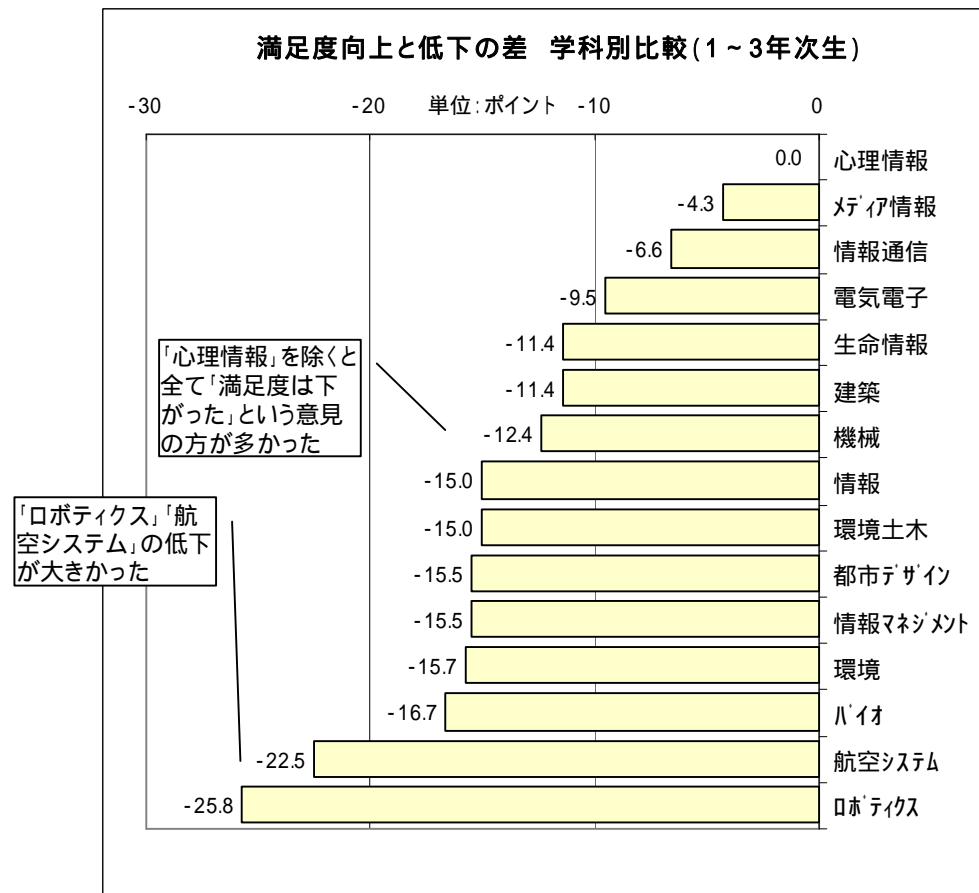
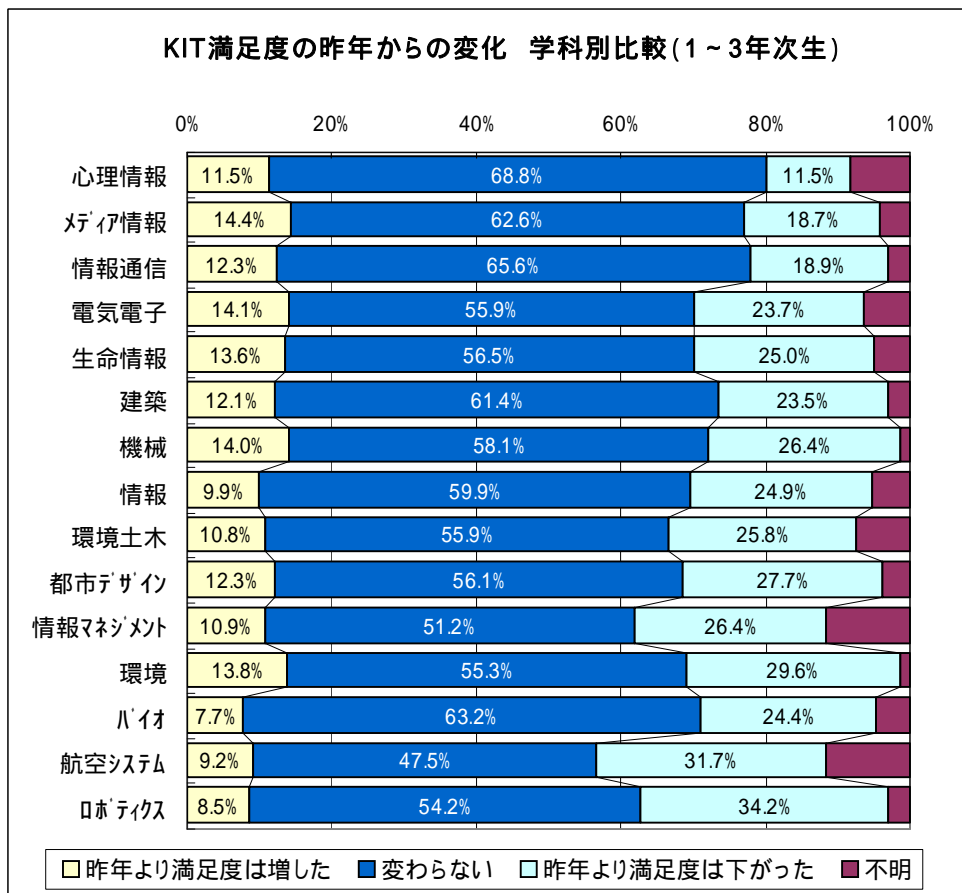
< 3-10 > 就職・進学満足度

- 就職・進学に関する満足度は「就職・進学指導に満足している」と「KITで自分の将来像が具体的にになった」の2点だけであった。
- まず、「就職・進学指導の満足度」は「3年次生」と「卒・修直前」にしか聞いていないが、77.8%が満足しており、満足度は高いと言える。
- そして、「KITで自分の将来像が具体的にになった」は全在學生に聞いているが、44.4%は将来像が具体的に became と答えていた。しかし、半数を超える51.5%は具体的にはなっていないと答えていた。



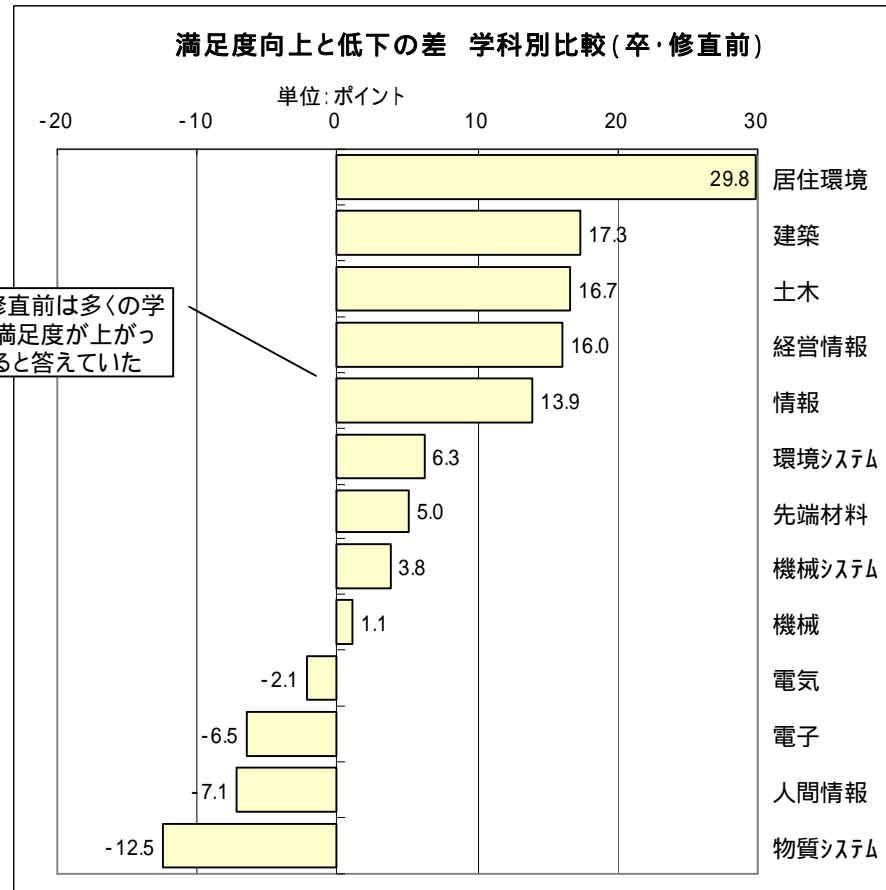
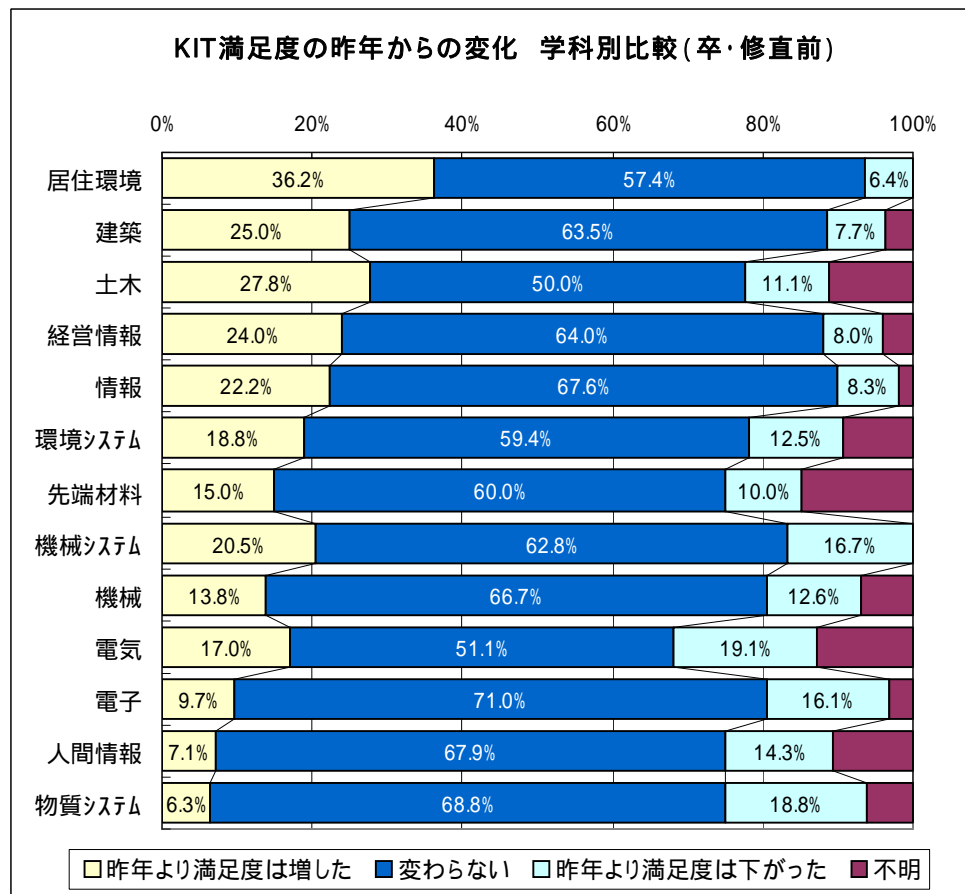
< 4-2 > KIT満足度の昨年からの変化の学科別比較(1～3年次生)

- 満足度の変化を学科別に比較した。ここでは共通の学科構成である1～3年次生の結果を見た。右の横棒グラフは「昨年より満足度は増した」の割合から「昨年より満足度は下がった」の割合をマイナスしたものをポイントで表しており、プラスになった学科は満足度が向上したと言える。
- まず、「昨年より満足度は増した」だけを見ると、最も多かったのは「メディア情報」であり、次いで「電気電子」「機械」「環境」といった順であった。
- 全般的には「昨年より満足度は下がった」の方が多く、「ロボティクス」「航空システム」「環境」では約3割が昨年より満足度が下がったと感じているようであった。
- 右の横棒グラフからも分かるように、「心理情報」を除く全ての学科で「昨年より満足度が下がった」という回答の方が多かった。特に目立っていたのは「ロボティクス」「航空システム」の2学科であり、大きな期待はずれを感じているようであった。



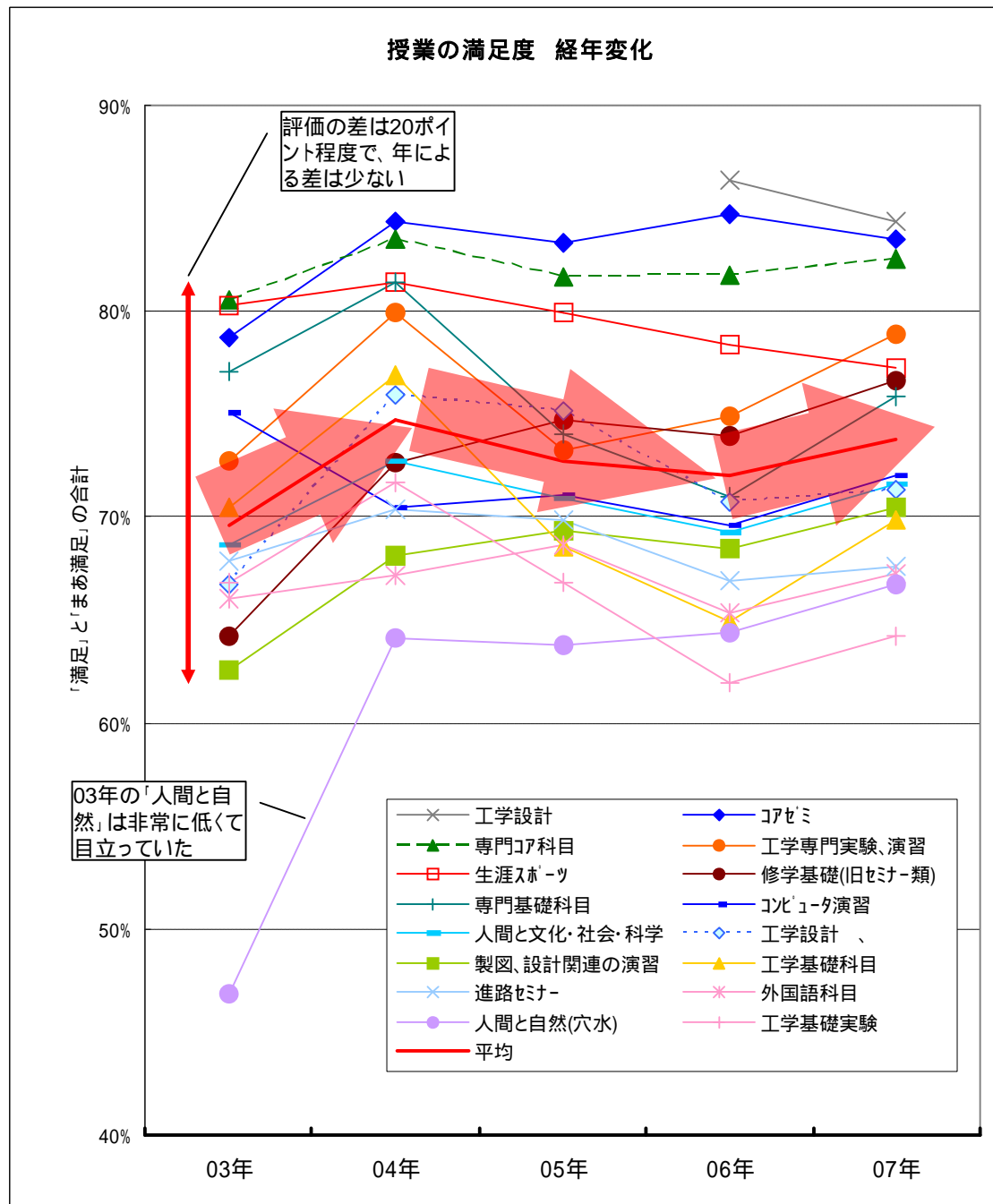
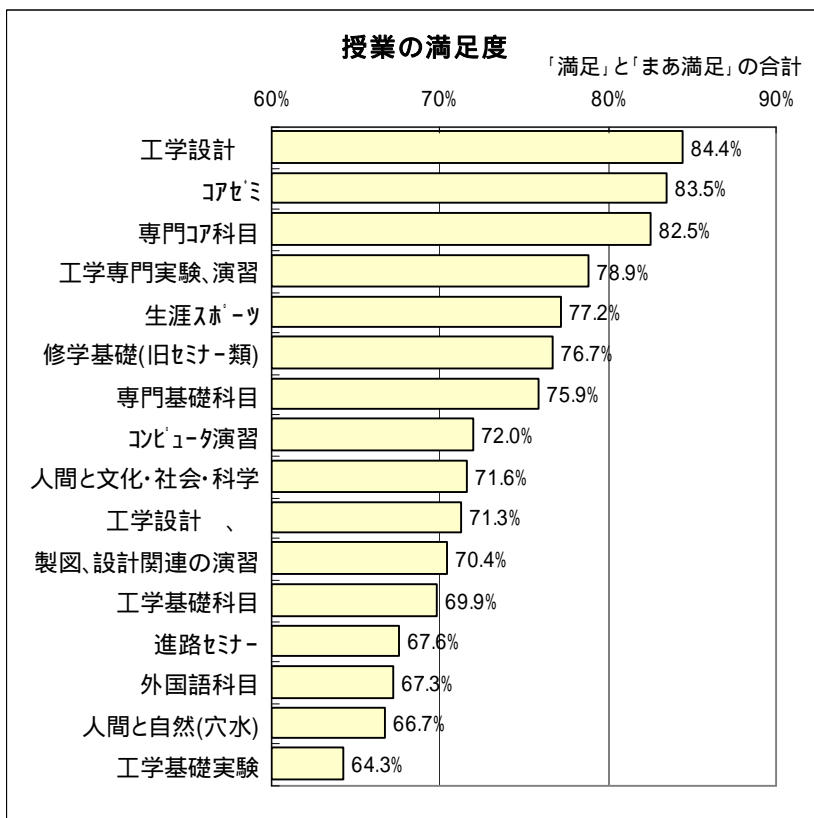
< 4-4 > KIT満足度の昨年からの変化の学科別比較 (卒・修直前)

- 卒業・修了直前の学生について、学科別に満足度変化を比較した。
- 「昨年より満足度は増した」が最も多かったのは「居住環境」の36.2%であり、次いで「土木(27.8%)」「建築(25.0%)」「経営情報(24.0%)」という順であった。前に「建築・土木系」の満足度の高さを確認しているが、ここでも同じ状況が確認でき、「建築・土木系」の「卒・修直前」は前年と比べて非常に強い満足感を得ているとすることができる。
- 「昨年より満足度は下がった」が最も多かったのは「電気」であり、「物質システム」「機械システム」なども「満足度が下がった」という割合が多かった。
- 次に「満足度向上と低下の差」を見ると「居住環境」の突出が目立っており、それに次ぐものは前に見たように「建築」と「土木」であった。そして「経営情報」「情報」も「昨年より満足度は増した」という意見の方が多く、充実している学科と言える。
- マイナススコアとなっていたのは「物質システム」「人間情報」「電子」「電気」の4学科であった。左の帯グラフを見ると「変わらない」の割合が7割程度を占めており、全体としては大きく変わっていないと思われるが、「昨年より満足度が下がった」と答えた学生の方が多かったという点は残念である。



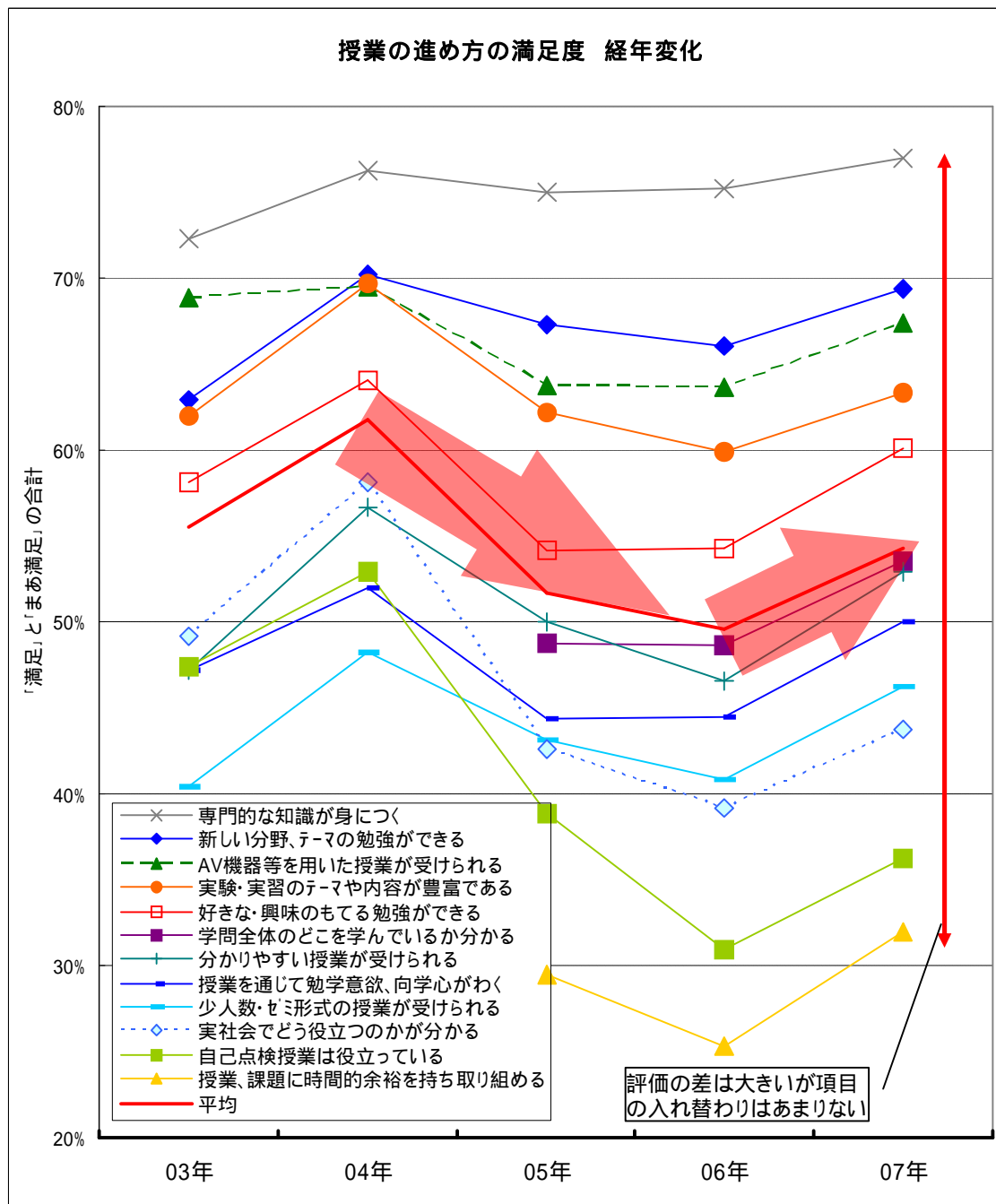
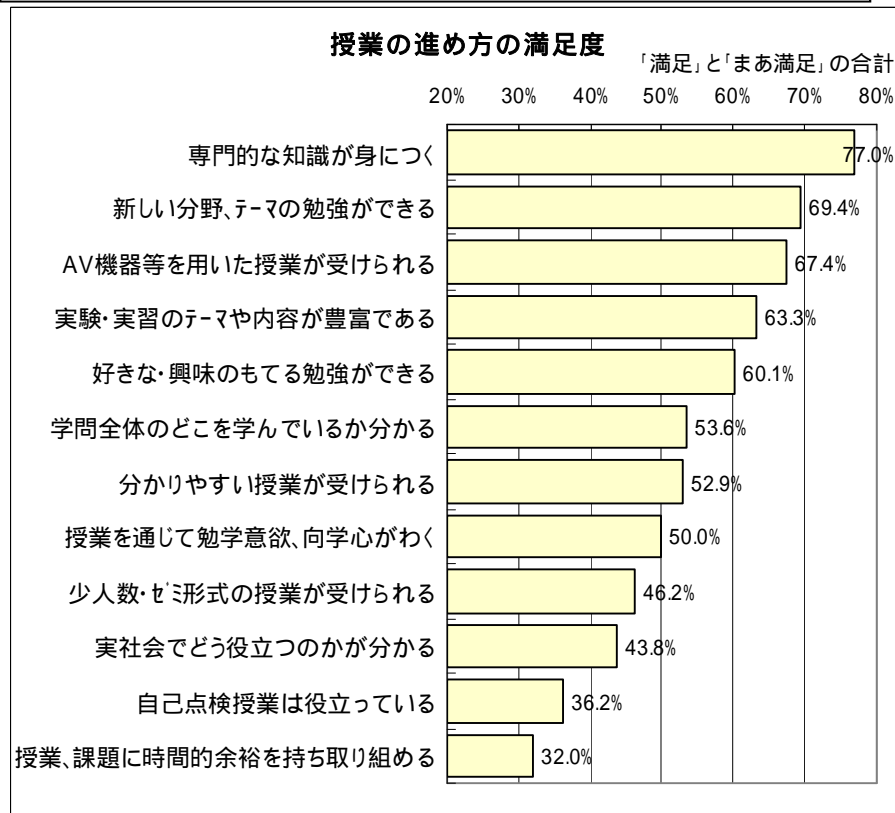
< 5-1 > 科目別の満足度

- 下記の横棒グラフで07年の科目別満足度を見ると、最も満足度が高かったのは「工学設計」であった。これは「卒・修直前」の科目であるが、84.4%が満足と答えていた。次いで「コアゼミ」「専門コア科目」「工学専門実験」など、専門性の高い科目の満足度が高い傾向があるようであった。
- 右の折れ線グラフは03年からの経年変化を見たものであるが、ここでは科目数が多いため、大きな流れを見るだけにする。03年から04年にかけては満足度が増し、その後06年まで徐々に下降。07年には上昇する結果となっており、前出の「学習支援」「授業」の満足度と一致する結果となっていた。
- 06年から07年の変化では、特に「工学専門実験、演習」「専門基礎科目」「工学基礎科目」の満足度向上が大きかった。



< 5-2 > 授業の進め方の満足度

- 進め方では「専門的な知識が身につく」の満足度が最も高く、次いで「新しい分野、テーマの勉強ができる」「AV機器等を用いた授業が受けられる」が7割近い満足度であった。
- 最も不満が大きいのは「授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める」であり、学生の時間のなさがうかがえた。そして、「自己点検授業」「実社会でどう役立つのかが分かる」「少人数・ゼミ形式の授業が受けられる」の満足度が低く、時間面、自己点検授業、少人数形式など進め方に対する不満が大きいようであった。
- 折れ線グラフで経年変化を見ると、04年から満足度が低下し、07年にはやや持ち直している。中でも「自己点検授業」「実社会で～」の低下が大きく、これらが授業の進め方の課題になるものと思われる。



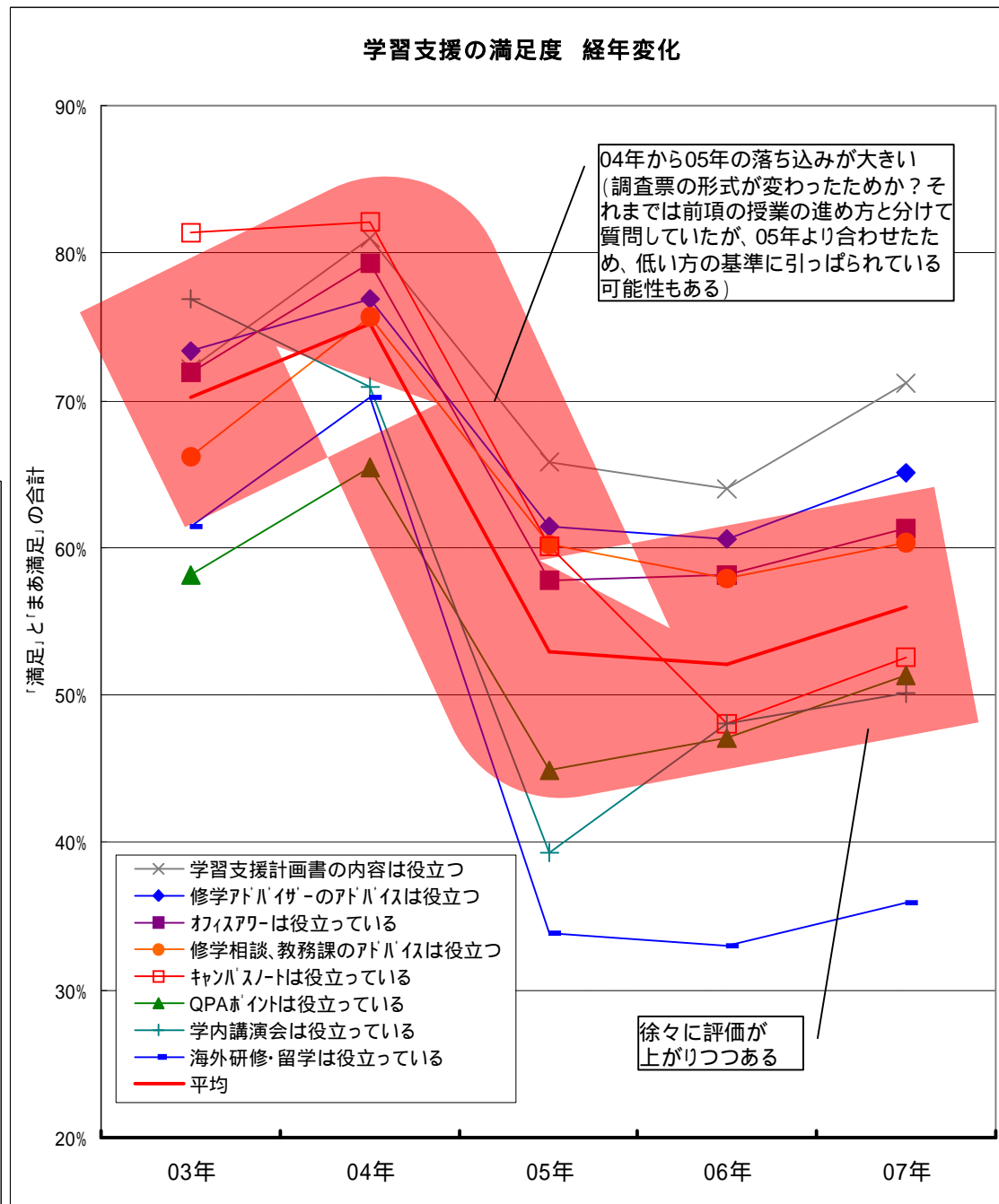
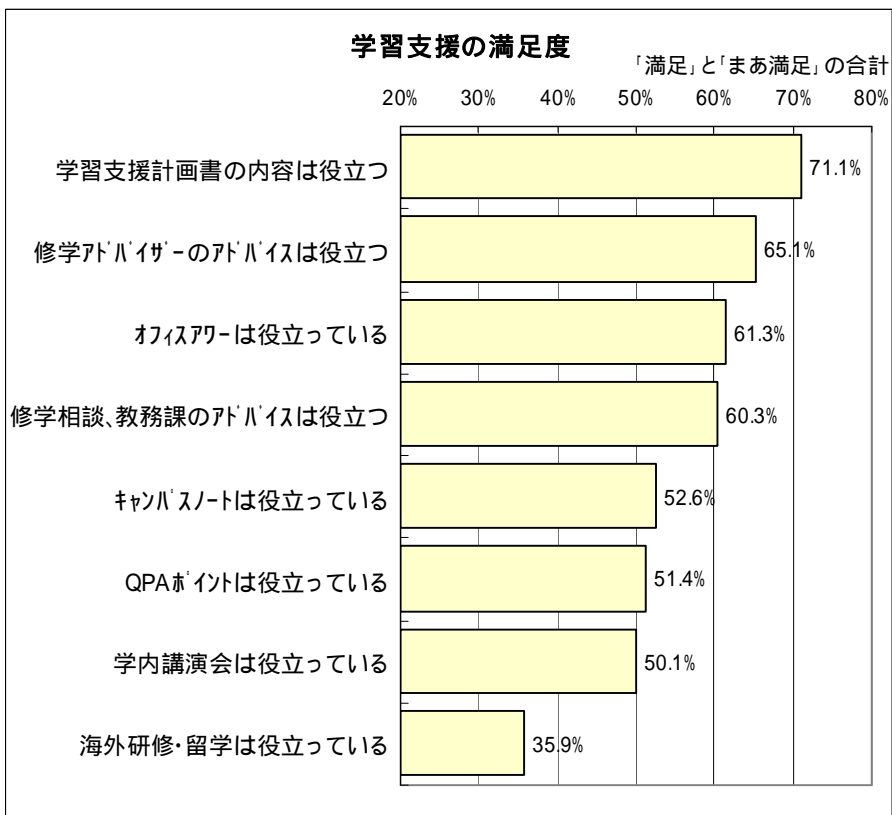
- 授業の進め方の満足度の項目別順位は年によってそれほど大きな変化は見られなかった。
- 最も満足度が高かったのは前項で見たように「専門的な知識が身につく」であり、03年より継続的に1位であった。
- そして「新しい分野、テーマの勉強ができる」「AV機器等を用いた授業が受けられる」「実験・実習のテーマや内容が豊富である」「好きな・興味のもてる勉強ができる」を合わせた5項目が上位を占めており、これらを見ると「AV機器～」を除く4項目は授業のテーマに関することであり、テーマ自体の満足度は非常に高いことが分かった。
- 下位のものを見ると、05年以降は安定しているが、前項で見たように「授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める」「自己点検授業は役立っている」「実社会でどう役立つのかが分かる」が下位を占めており、これらに課題があると思われる。
- 下位のをまとめると、下記のような課題をまとめることができる。
 - 時間的な余裕のなさなどの程度が実態を把握し、課題調整の必要性などを検討する。
 - 自己点検授業の学生の評価実態を把握し、改善の必要性を検討する。
 - 各科目の内容はシラバスで示されているが、各学科で4年間に学ぶ学問と、その先にある社会での応用の方向性を体系立てて説明する資料を用意するなど、学生の指標づくりの必要性、各学科の結びつけの必要性を検討する。
 - 少人数形式の授業の可能性を検討する。

授業の進め方の満足度 年別の満足度順位

順位	03年	04年	05年	06年	07年
1	専門的な知識が身につく	専門的な知識が身につく	専門的な知識が身につく	専門的な知識が身につく	専門的な知識が身につく
2	AV機器等を用いた授業が受けられる	新しい分野、テーマの勉強ができる	新しい分野、テーマの勉強ができる	新しい分野、テーマの勉強ができる	新しい分野、テーマの勉強ができる
3	新しい分野、テーマの勉強ができる	実験・実習のテーマや内容が豊富である	AV機器等を用いた授業が受けられる	AV機器等を用いた授業が受けられる	AV機器等を用いた授業が受けられる
4	実験・実習のテーマや内容が豊富である	AV機器等を用いた授業が受けられる	実験・実習のテーマや内容が豊富である	実験・実習のテーマや内容が豊富である	実験・実習のテーマや内容が豊富である
5	好きな・興味のもてる勉強ができる	好きな・興味のもてる勉強ができる	好きな・興味のもてる勉強ができる	好きな・興味のもてる勉強ができる	好きな・興味のもてる勉強ができる
6	実社会でどう役立つのかが分かる	実社会でどう役立つのかが分かる	分かりやすい授業が受けられる	学問全体のどこを学んでいるか分かる	学問全体のどこを学んでいるか分かる
7	自己点検授業は役立っている	分かりやすい授業が受けられる	学問全体のどこを学んでいるか分かる	分かりやすい授業が受けられる	分かりやすい授業が受けられる
8	分かりやすい授業が受けられる	自己点検授業は役立っている	授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	授業を通じて勉学意欲、向学心がわく
9	授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	授業を通じて勉学意欲、向学心がわく	少人数・セミ形式の授業が受けられる	少人数・セミ形式の授業が受けられる	少人数・セミ形式の授業が受けられる
10	少人数・セミ形式の授業が受けられる	少人数・セミ形式の授業が受けられる	実社会でどう役立つのかが分かる	実社会でどう役立つのかが分かる	実社会でどう役立つのかが分かる
11	学問全体のどこを学んでいるか分かる	学問全体のどこを学んでいるか分かる	自己点検授業は役立っている	自己点検授業は役立っている	自己点検授業は役立っている
12	授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める	授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める	授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める	授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める	授業、課題に時間的余裕を持ち取り組める

< 5-3 > 学習支援の満足度

- 学習支援の満足度では「学習支援計画書」の満足度が最も高く、次いで「修学アドバイザー」「オフィスアワー」「修学相談、教務課」と続いていた。
- 満足度が最も低かったのは「海外研修・留学」であるが、これは不参加者が多いことも要因になっていると思われる。そして「学内講演会」「QPAポイント」「キャンパスノート」もやや低めであったが、5割以上は満足していた。
- 経年変化を見ると、04年から05年にかけての落ち込みが非常に大きい。これは05年に調査票の構成を変えたためではないかと思われる。
- 05年以降を見ると満足度はやや向上する傾向にあり、06年から07年にかけては全てが上昇していた。



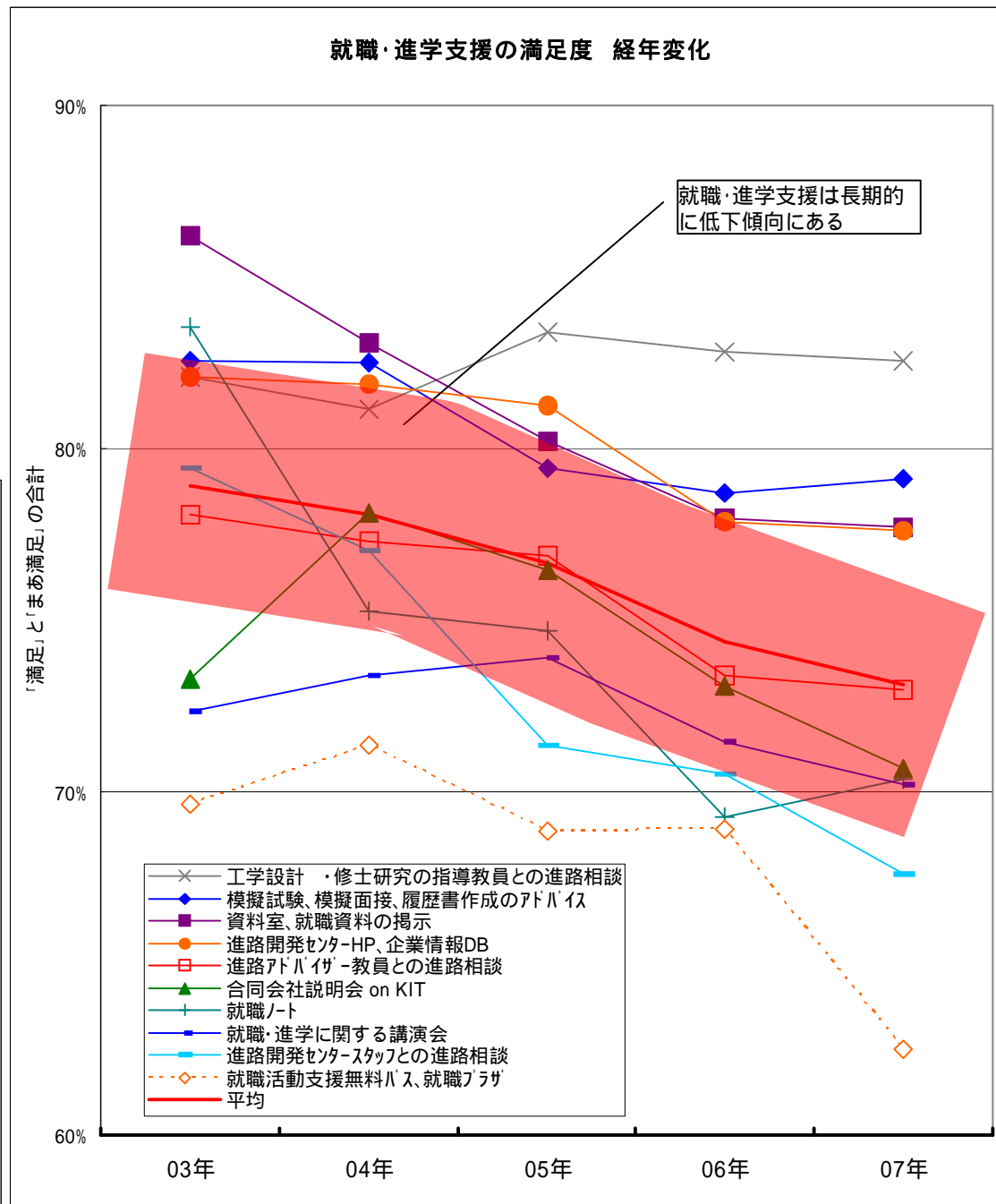
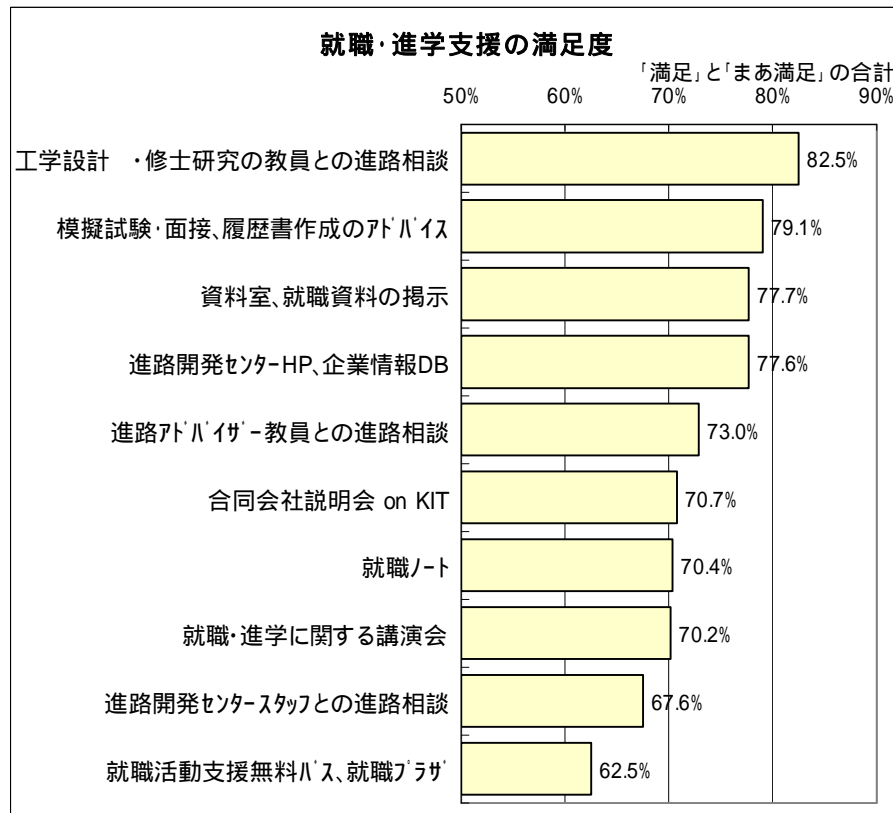
- 学習支援の満足度は05年の調査票改訂で影響を受けている可能性があるため、05年以降の経年変化を見ていく。
- 「学習支援計画書」の満足度は常に高く、「修学アドバイザー」「オフィスアワー」の3つが06年以降の上位3つとなっている。「オフィスアワー」は06年より満足度が増しており、何らかの改善が行われているとも考えられる。
- 満足度が低かったのは「海外研修・留学」「学内講演会」「QPAポイント」などであった。
- 「学内講演会」は06年には評価が上がり、その後低下しているが、この要因として講演会のテーマなども含まれると思われる。
- 「QPAポイント」は常に低く、改善すべき点がないか確認する必要があると思われる。
- 「キャンパスノート」の評価は年によって変化している。条件が異なるため比較は難しいが、03年から04年の高さと比較すると06年、07年の評価は低く、これも改善すべき点がないか確認する必要があると思われる。

学習支援の満足度 年別の満足度順位

順位	03年	04年	05年	06年	07年
1	キャンパスノートは役立っている	キャンパスノートは役立っている	学習支援計画書の内容は役立つ	学習支援計画書の内容は役立つ	学習支援計画書の内容は役立つ
2	学内講演会は役立っている	学習支援計画書の内容は役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ
3	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	オフィスアワーは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	オフィスアワーは役立っている	オフィスアワーは役立っている
4	学習支援計画書の内容は役立つ	修学アドバイザーのアドバイスは役立つ	キャンパスノートは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ
5	オフィスアワーは役立っている	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	オフィスアワーは役立っている	学内講演会は役立っている	キャンパスノートは役立っている
6	修学相談、教務課のアドバイスは役立つ	学内講演会は役立っている	QPAポイントは役立っている	キャンパスノートは役立っている	QPAポイントは役立っている
7	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている	学内講演会は役立っている	QPAポイントは役立っている	学内講演会は役立っている
8	QPAポイントは役立っている	QPAポイントは役立っている	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている	海外研修・留学は役立っている

< 5-5 > 就職・進学支援の満足度

- 就職・進学支援では「工学設計・修士研究の教員との相談」の評価が最も高く、次いで「模擬試験・面接、履歴書作成のアドバイス」「資料室、就職資料の掲示」が続いていた。
- 満足度が最も低かったのは「就職支援無料バス、就職プラザ」であるが、これは未利用者の意見も含まれているためだと思われる。また、「進路開発センタースタッフとの進路相談」「就職・進学に関する講演会」などの満足度も低かった。
- 経年変化を見ると、大きな流れとしては03年より長期的に満足度が低下する傾向にあった。「工学設計・修士研究の教員との相談」は04年から05年で向上し、その後は横這いであったが、その他の項目はほぼ右肩下がり状況にあり、就職・進学支援に関しては全体的に課題がありそうであった。



- 前項で見たように、就職・進学支援に関しては全体的に課題がありそうであったが、個別の評価の順位を見ると右記のようになっていた。
- 評価が高かったものの推移を見ると、「工学設計・修士研究の教員との相談」「模擬試験・面接、履歴書作成のアドバイス」「資料室、就職資料の掲示」「進路開発センターHP、企業情報DB」などは05年以降は上位を占めていたが、03年から見ると「進路開発センターHP、企業情報DB」などは改善が進んだ結果、このように満足度が高まったのではないかと思われる。
- 一方、「就職ノート」は03年には評価が高かったものの、04年以降は満足度が一気に低下しており、順位も下位に固定してしまっている。
- 評価が低いものも固定しており「就職支援無料バス、就職プラザ」は未利用者の扱いという課題はあるが、03年から継続的に最下位となっている。
- その他、「進路開発センタースタッフとの進路相談」「就職・進学に関する講演会」「就職ノート」もこの4年間ほどは固定していた。

就職・進学支援の満足度 年別の満足度順位

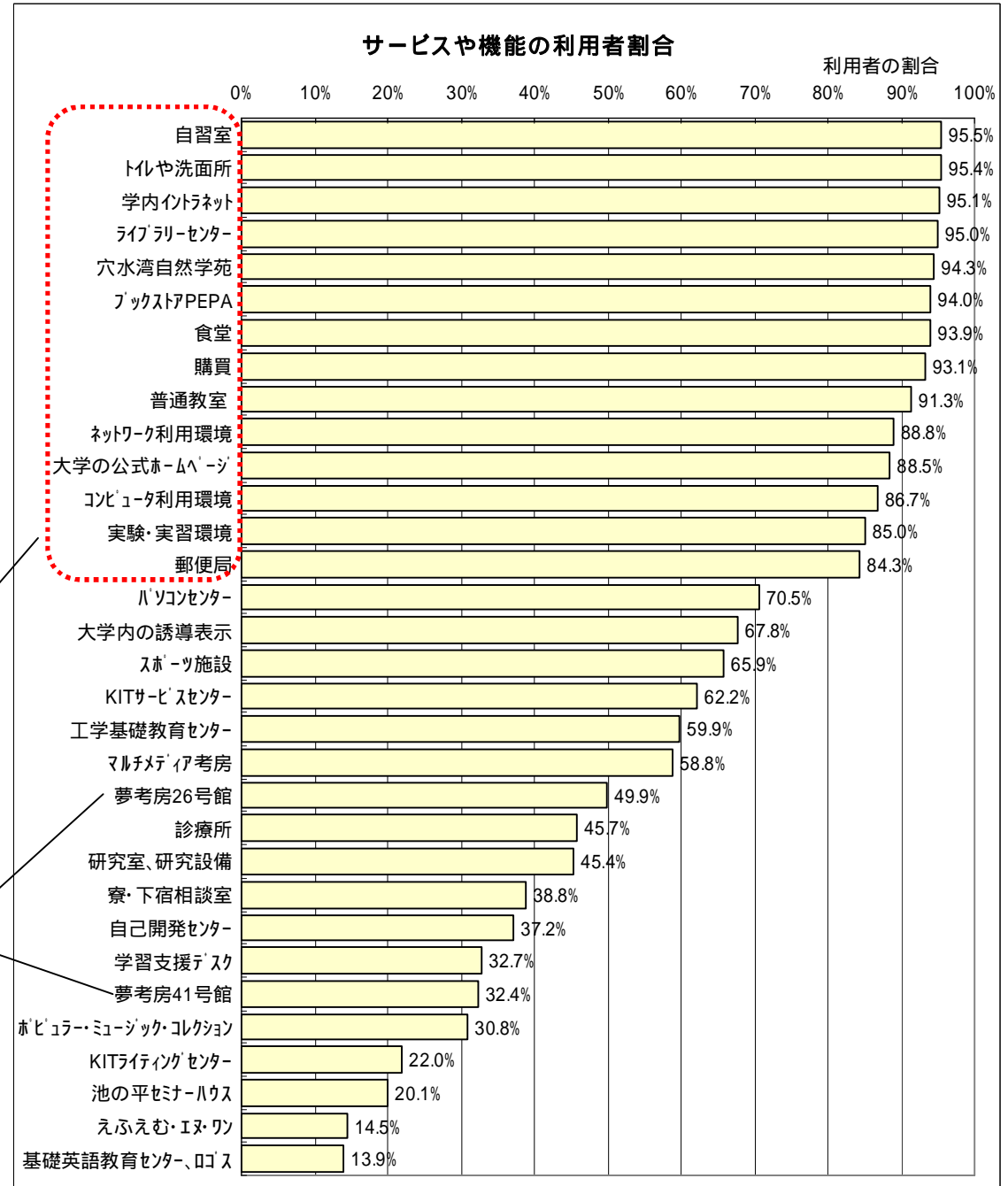
順位	03年	04年	05年	06年	07年
1	資料室、就職資料の掲示	資料室、就職資料の掲示	工学設計・修士研究の指導教員との進路相談	工学設計・修士研究の指導教員との進路相談	工学設計・修士研究の指導教員との進路相談
2	就職ノート	模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス	進路開発センターHP、企業情報DB	模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス	模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス
3	模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス	進路開発センターHP、企業情報DB	資料室、就職資料の掲示	資料室、就職資料の掲示	資料室、就職資料の掲示
4	工学設計・修士研究の指導教員との進路相談	工学設計・修士研究の指導教員との進路相談	模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス	進路開発センターHP、企業情報DB	進路開発センターHP、企業情報DB
5	進路開発センターHP、企業情報DB	合同会社説明会 on KIT	進路アドバイザー教員との進路相談	進路アドバイザー教員との進路相談	進路アドバイザー教員との進路相談
6	進路開発センタースタッフとの進路相談	進路アドバイザー教員との進路相談	合同会社説明会 on KIT	合同会社説明会 on KIT	合同会社説明会 on KIT
7	進路アドバイザー教員との進路相談	進路開発センタースタッフとの進路相談	就職ノート	就職・進学に関する講演会	就職ノート
8	合同会社説明会 on KIT	就職ノート	就職・進学に関する講演会	進路開発センタースタッフとの進路相談	就職・進学に関する講演会
9	就職・進学に関する講演会	就職・進学に関する講演会	進路開発センタースタッフとの進路相談	就職ノート	進路開発センタースタッフとの進路相談
10	就職活動支援無料バス、就職プラザ	就職活動支援無料バス、就職プラザ	就職活動支援無料バス、就職プラザ	就職活動支援無料バス、就職プラザ	就職活動支援無料バス、就職プラザ

< 6-1 > サービスや機能の利用者割合

- 「サービスや機能」に関しては、今回より「利用経験の有無」を聞いている。
- 右は利用経験者の多いものから順に並べたものであるが、「自習室」の95.5%から「郵便局」の84.3%まではほとんどの学生が使っていると言って良いと思われる。
- 「パソコンセンター(70.5%)」以降は使っていない学生も増えてきており、最も利用者割合が低かったのは「基礎英語教育センター、ロゴス」の13.9%、次いで「えふえむ・エヌ・ワン(の聴取)」の14.5%であった。
- その他、KITの代表的な施設を確認すると、「ライブラリーセンター」の利用率は95.0%と非常に高かったが、「夢考房26号館」は49.9%、「夢考房41号館」は32.4%と、やや低いように思われた。

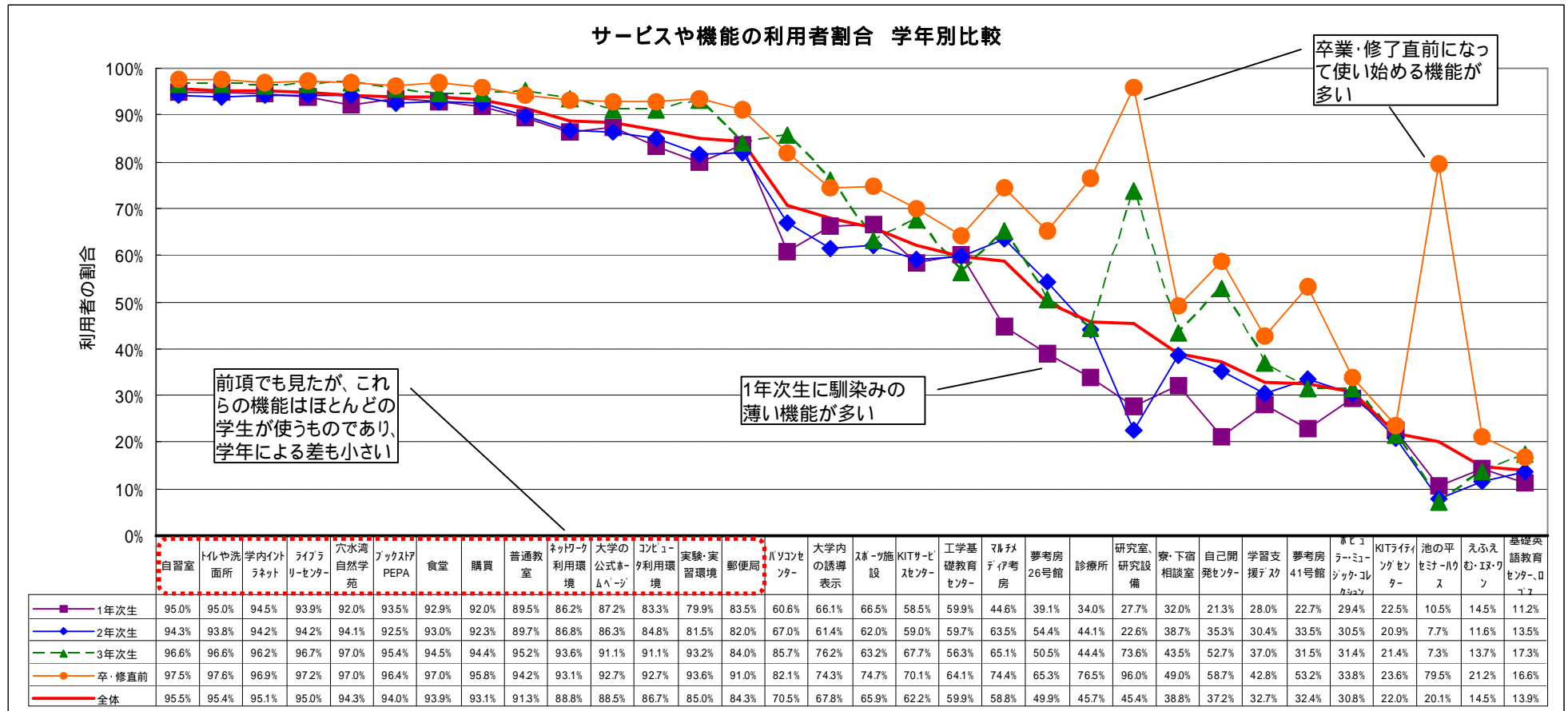
ほとんどの学生が利用しているこれらの機能が大学生活に不可欠なものと言える

夢考房の利用割合は5割に達していなかった



< 6-2 > サービスや機能の利用者割合の学年別比較

- 利用者の割合を学年別に比較したところ、前項でも見た「自習室」から「郵便局」までのものは学年による差が非常に小さく、学年に係わらず学生全員が使っていることが分かる。
- まず、学年によって特徴が見られたのは「1年次生」の利用者の少なさであるが、「マルチメディア考房」「夢考房26号館、41号館」「診療所」「自己開発センター」などは「1年次生」の利用割合が低く、「1年次生」はこれらを使うことに「慣れてない」「抵抗を感じている」といった状況が考えられる。「マルチメディア考房」「夢考房」はKITの特徴でもあり、早い時期に接点を持つことでKITに対する満足度も変わるのではないと思われる。
- 「卒・修直前」は色々なサービスや施設を使用する割合が高く、「研究室・研究設備」「池の平セミナーハウス」などが特徴的であった。また、「診療所」を使う割合も高かったが、これがどのような使用によるものかが気になる点であった。
- そして、「2年次生」は「研究室・研究設備」の利用割合が「1年次生」を下回っていたが、早い時期に研究室の雰囲気を知ること重要だと思われる。

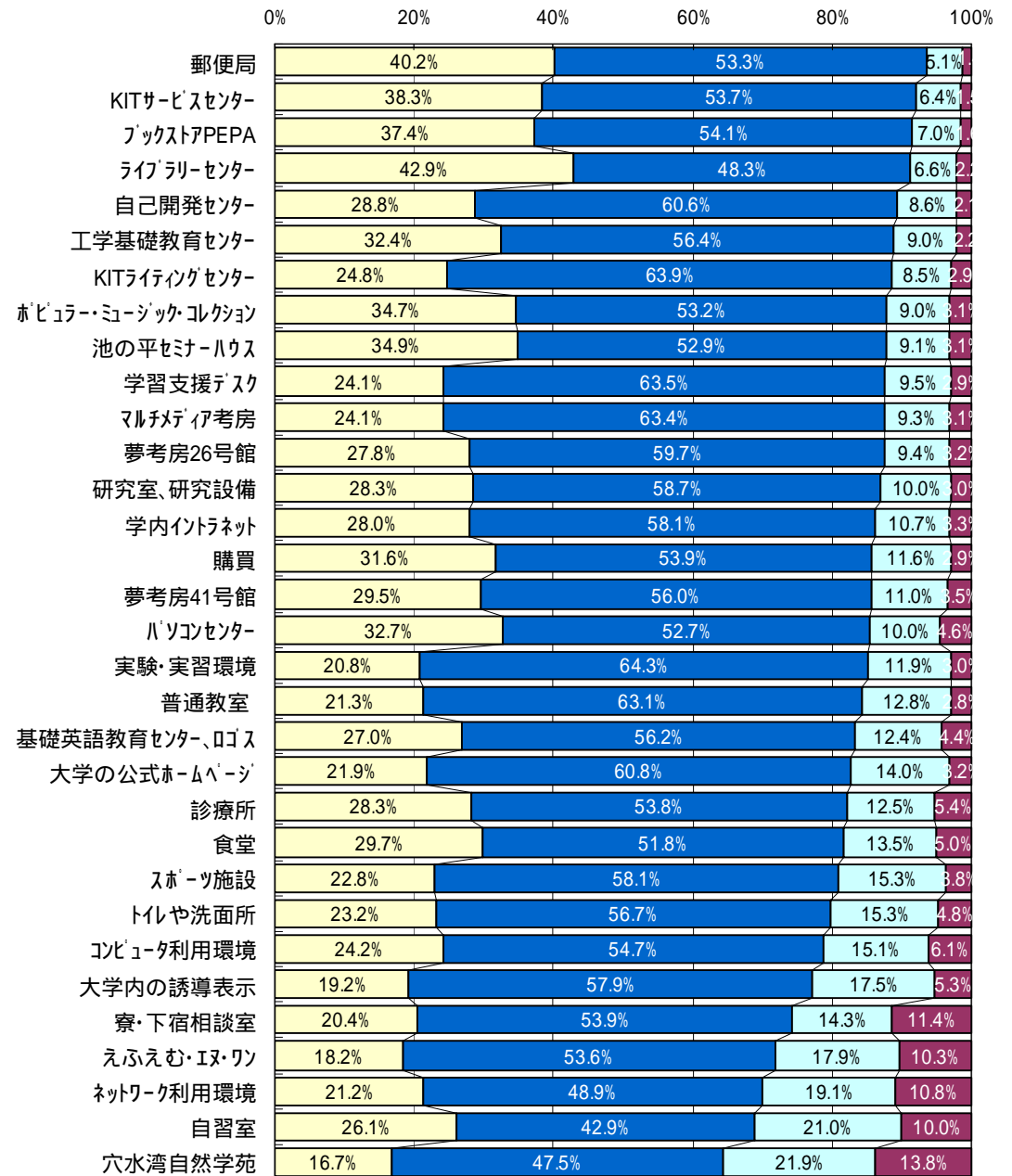


< 6-3 > サービスや機能の満足度

- 「サービスや機能の満足度」は06年までは全員に対して聞いていたが、今回は前項で見たように「利用経験者のみ」に聞くように改めた。
- 「満足」と「まあ満足」を合わせた数値で比較すると、最も満足度が高かったのは「郵便局」であり、93.5%が満足していた。これは郵便局の対応への満足度が高いというだけでなく、「大学内に郵便局がある」という利便性に対する評価も含まれていると思われる。
- 次いで「KITサービスセンター」「ブックストアPEPA」「ライブラリーセンター」「自己開発センター」と続いていた。
- 「自己開発センター」の利用経験者は全体の37.2%にとどまっていたが、利用者の満足度は非常に高く、この結果を見るとより利用促進をしても良いのではないかとと思われる。
- 同様に「基礎英語教育センター、ロゴス」「KITライティングセンター」「ポピュラー・ミュージック・コレクション」なども利用率は低いが利用者の満足度は比較的高いという傾向が見られた。
- 満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑」「自習室」「ネットワーク利用環境」「えふえむ・エヌ・ワン」等であったが、「自習室」「ネットワーク利用環境」などは利用率が大変高いものであり、どのような不満があるのかをしっかりと把握して早急な対処を行う必要があると言える。

満足
 まあ満足
 少し不満
 不満

サービスや機能の満足度(利用経験者のみ)

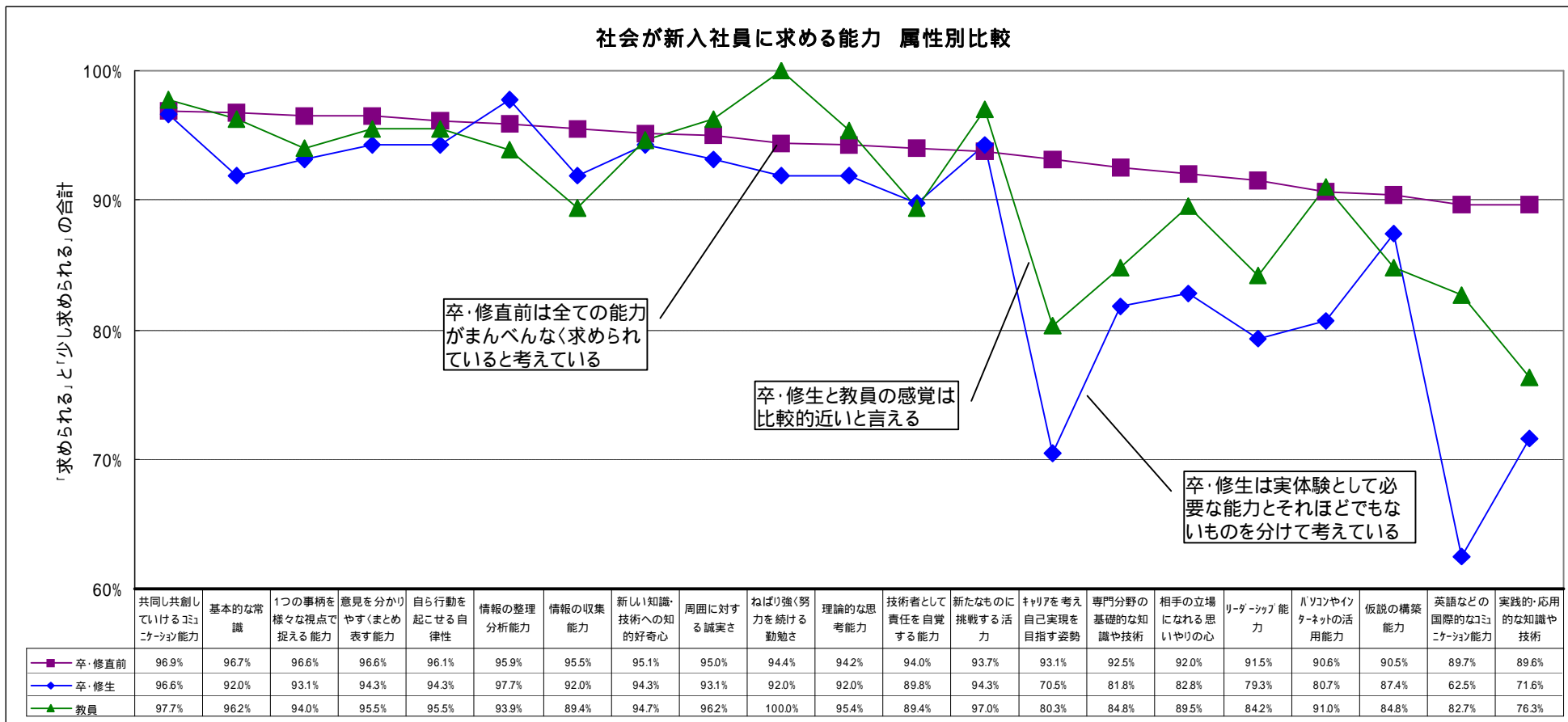


<7-1> 社会が新入社員に求める能力

- まず、グラフで比較すると、「卒業・修了直前」は「共同し共創していけるコミュニケーション能力」を始めとして全ての項目のスコアが高く、「社会人にはどの能力もまんべんなく求められている」と考えているようであった。
- そして、「卒業・修了生」と「教員」は求められていると感じている能力はほぼ一致しているが、既に社会人となった「卒業・修了生」の方がやや低めでも構わないと感じているようであった。
- 右の表は属性毎に上位と下位を3つ並べたものである。「共同共創～」はどの属性でも大事だと考えており、その他も精神的なものが並んだが、「卒業・修了生」は「情報の整理分析能力」を挙げており、これは実務的に重要視されている能力だと言える。
- 重要視されていない能力としては「実践的・応用的な知識や技術」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「キャリアを考え自己実現を目指す姿勢」などが挙げられていた。

上位3項目、下位3項目

	卒・修直前	卒・修生	教員
最上位	共同し共創していけるコミュニケーション能力	情報の整理分析能力	ねばり強く努力を続ける勤勉さ
2位	基本的な常識	共同し共創していけるコミュニケーション能力	共同し共創していけるコミュニケーション能力
3位	1つの事柄を様々な視点で捉える能力	(同率が4つ)	新たなものに挑戦する活力
最下位	実践的・応用的な知識や技術	英語などの国際的なコミュニケーション能力	実践的・応用的な知識や技術
2位	英語などの国際的なコミュニケーション能力	キャリアを考え自己実現を目指す姿勢	キャリアを考え自己実現を目指す姿勢
3位	仮説の構築能力	実践的・応用的な知識や技術	英語などの国際的なコミュニケーション能力



<7-2> 現在の自分の能力

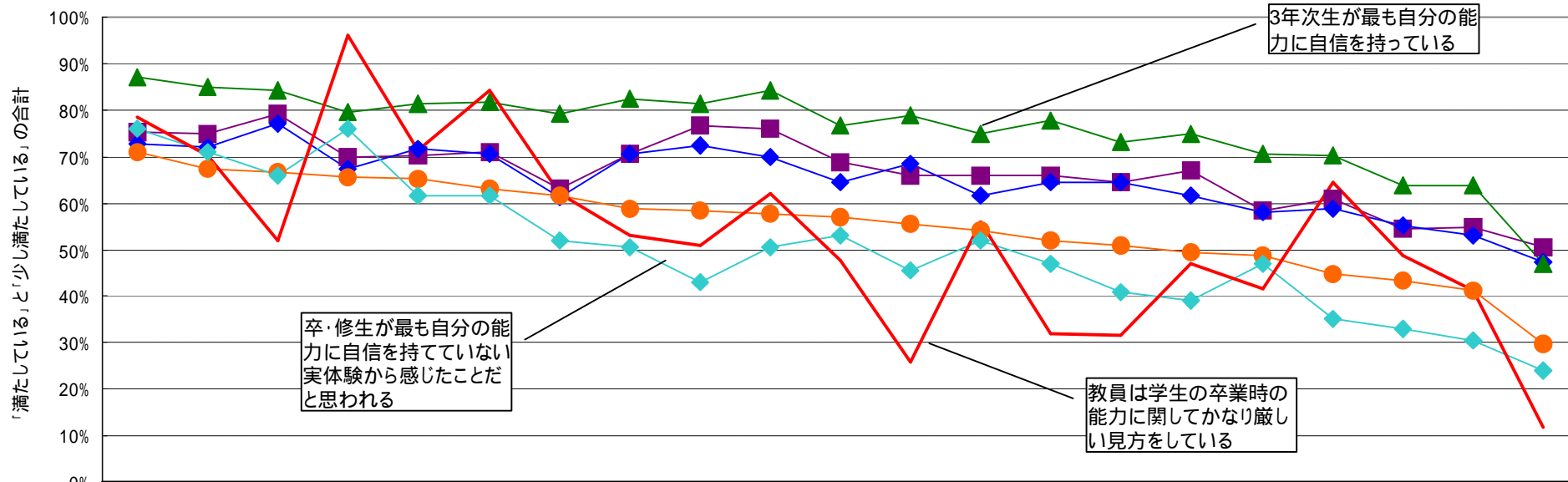
- 現在の自分の能力は「在学生」「卒業・修了生」「教員」に聞いたが、「教員」を除くと前項のように属性によってそれほど大きな差は見られず、自分自身の能力の評価は在学生も卒業生もそれほど変わらないことが確認できた。
- 学年別に見ると「3年次生」が最も自分の能力に自信を持っており、「1年次生」「2年次生」は同程度、「卒業・修了直前」はやや低く、社会人になった「卒業・修了生」が最も低かった。
- 前項と合わせてみると、「卒業・修了生」は在学生が思っているほど社会人には全ての面をカバーする能力は必要ないと思っているものの、社会人になってみると自分自身の能力にやや自信を持ってないと感じていると言っていることができる。
- 上位と下位をみると、学生と「教員」の間には意識の違いがある。「卒業・修了生」「教員」が挙げている「パソコンやインターネットの活用能力」は高く評価されるものであると思われる。

上位3項目、下位3項目

	卒・修直前	卒・修生	教員
最上位	周囲に対する誠実さ	周囲に対する誠実さ	パソコンやインターネットの活用能力
2位	相手の立場になれる思いやりの心	パソコンやインターネットの活用能力	共同し共創していけるコミュニケーション能力
3位	新しい知識・技術への知的好奇心	相手の立場になれる思いやりの心	周囲に対する誠実さ

	卒・修直前	卒・修生	教員
最下位	英語などの国際的なコミュニケーション能力	英語などの国際的なコミュニケーション能力	英語などの国際的なコミュニケーション能力
2位	実践的・応用的な知識や技術	実践的・応用的な知識や技術	理論的な思考能力
3位	リーダーシップ能力	リーダーシップ能力	仮説の構築能力

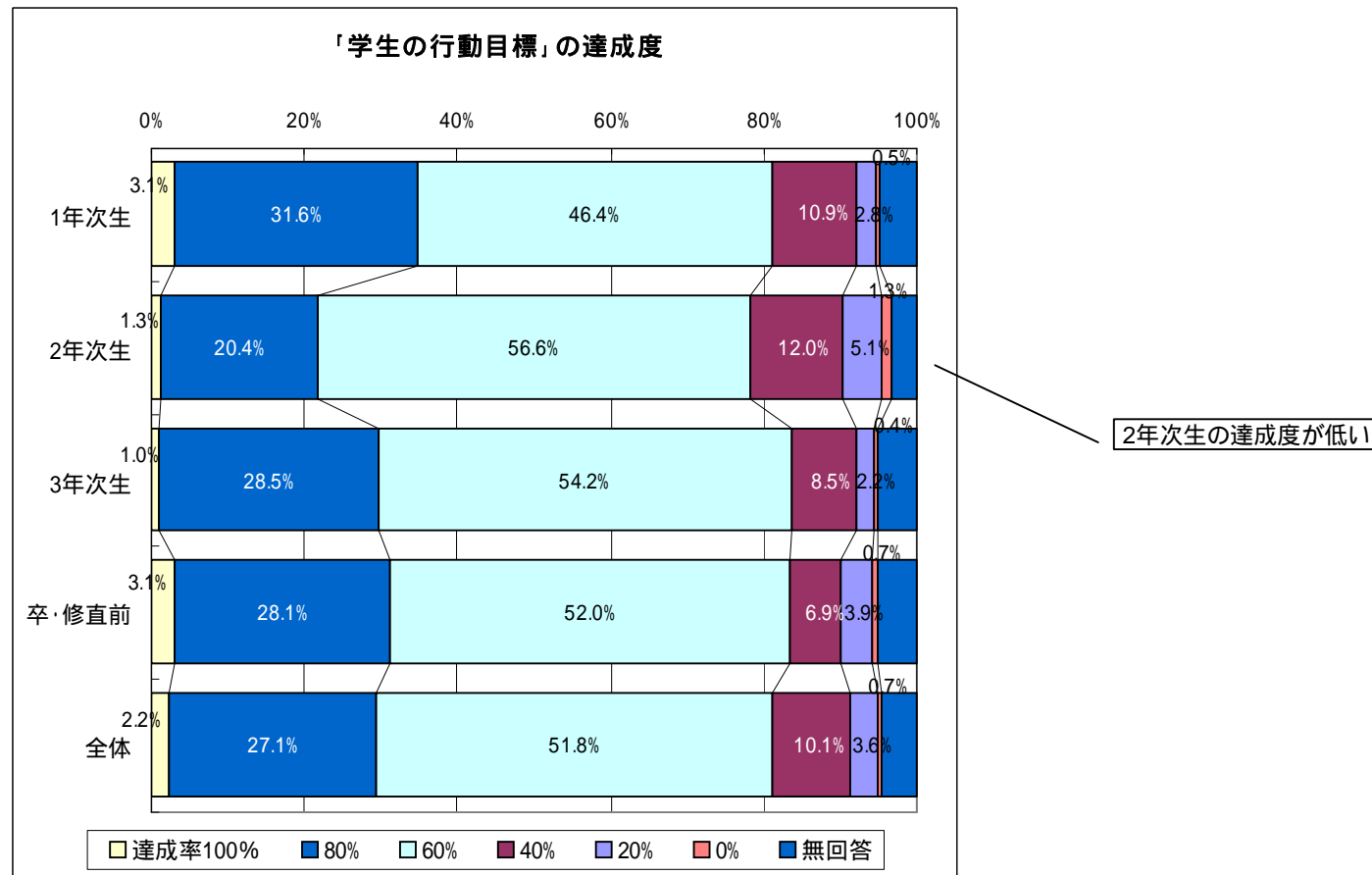
現在の自分の能力(卒業時の学生の能力) 属性別比較



	周囲に対する誠実さ	相手の立場になれる思いやりの心	新しい知識・技術への知的好奇心	パソコンやインターネットの活用能力	情報の収集能力	共同し共創していけるコミュニケーション能力	ねばり強く努力を続ける勤勉さ	情報の整理分析能力	基本的な常識	技術者として責任を自覚する能力	新たなものに挑戦する活力	理論的な思考能力	自ら行動を起こせる自律性	1つの事柄を様々な視点で捉える能力	仮説の構築能力	キャリアを考え自己実現を目指す姿勢	専門分野の基礎的な知識や技術	意見を分かりやすくまとめ表す能力	リーダーシップ能力	実践的・応用的な知識や技術	英語などの国際的なコミュニケーション能力
1年次生	75.4%	75.0%	79.3%	69.9%	70.2%	71.1%	63.0%	70.5%	76.7%	75.9%	68.9%	65.8%	65.8%	65.9%	64.5%	66.9%	58.4%	60.9%	54.3%	54.9%	50.4%
2年次生	72.9%	72.2%	77.1%	67.5%	71.6%	70.5%	61.2%	70.4%	72.5%	69.9%	64.6%	68.3%	61.6%	64.5%	64.5%	61.7%	58.1%	58.6%	55.3%	53.2%	47.2%
3年次生	87.3%	84.9%	84.3%	79.6%	81.4%	81.8%	79.2%	82.5%	81.5%	84.1%	76.8%	78.9%	75.0%	77.6%	73.0%	75.0%	70.6%	70.2%	64.0%	63.7%	46.8%
卒・修直前	70.9%	67.2%	66.6%	65.6%	65.1%	63.1%	61.7%	58.9%	58.5%	57.8%	57.1%	55.5%	54.0%	51.9%	50.8%	49.4%	48.8%	44.9%	43.3%	41.4%	29.8%
卒・修生	75.9%	70.9%	65.8%	75.9%	61.7%	61.7%	51.9%	50.6%	43.0%	50.6%	53.2%	45.7%	51.9%	46.9%	40.7%	39.2%	46.8%	35.0%	32.9%	30.4%	24.1%
教員	78.6%	70.1%	52.0%	96.0%	71.3%	84.3%	61.9%	53.1%	50.8%	61.9%	47.6%	25.8%	55.9%	32.0%	31.5%	46.8%	41.6%	64.6%	48.8%	41.3%	11.9%

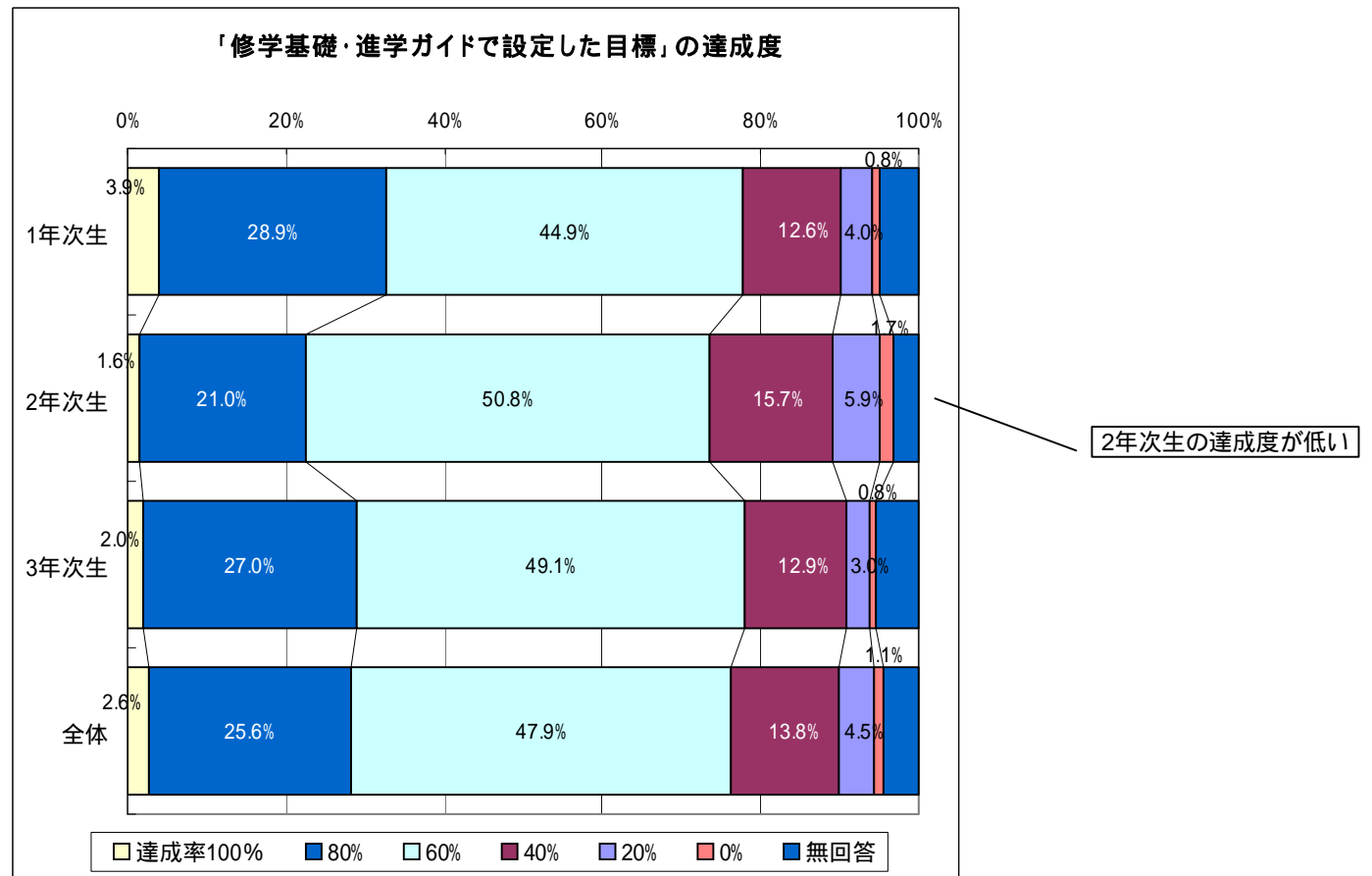
< 8-1 > 「学生の行動目標」の達成度

- 達成度に関しては「学生の行動目標」「修学基礎・進学ガイドで設定した目標」の2つの指標に関して聞いた。
- まず、「学生の行動目標」の達成度について、在学生全体の数値を見ると、「達成率100%」という学生は2.2%、「達成率80%」という学生は27.1%であった。そして最も多かったのが「達成率60%」で51.8%であった。これらをまとめると「達成率80%以上」が3割、「達成率60%」が5割、「達成率40%未満」が2割という構成であった。
- 学年別の比較を上記の3分類で見ると、「1年次生」の達成率が最も高く、次いで「卒業・修了直前」「3年次生」と続いており、この3つの達成率はそれほど変わらなかったようである。達成率が低かったのは「2年次生」であり、その他の学年では「達成率80%以上」が3割～3.5割いることと比べると、「2年次生」では2割ほどにとどまっており、達成率の低さが目立っていた。
- 「達成率が40%未満」という層は上記の裏返しの結果となり、「2年次生」で達成率が低い傾向が見られた。そして、他の学年の結果はあまり変わらず、2割ほどが「達成率40%未満」という結果であった。



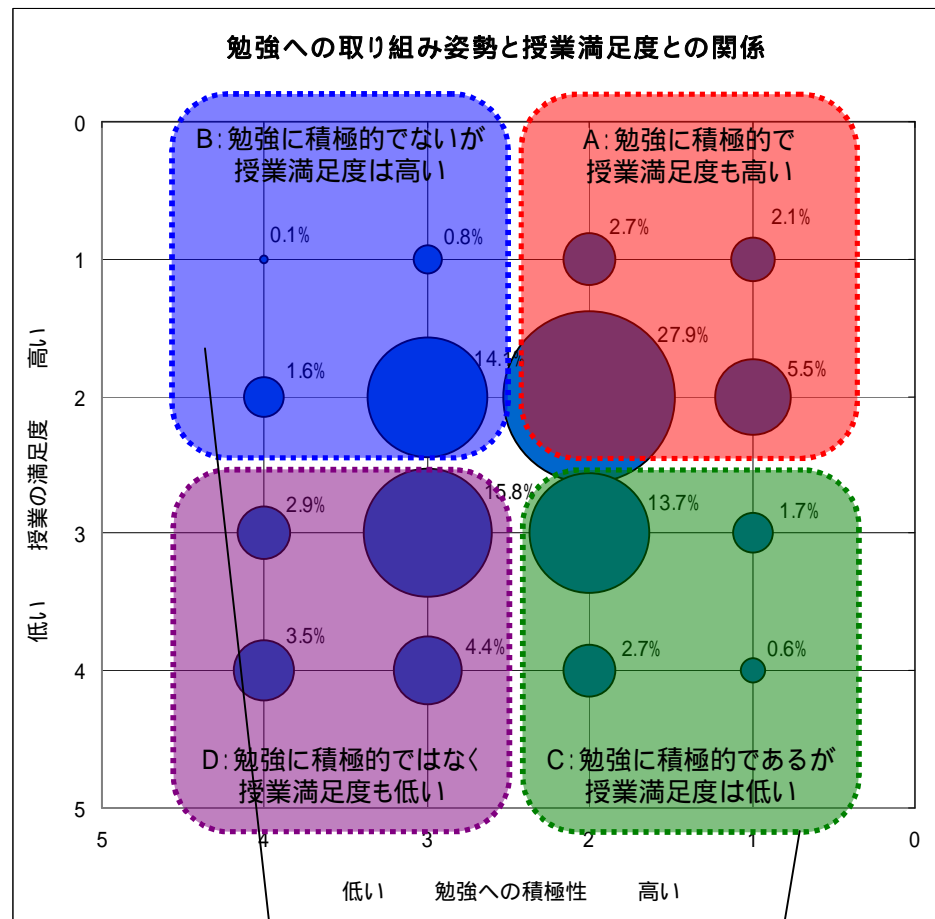
< 8-3 > 「修学基礎・修学ガイドで設定した目標」の達成度

- 「修学基礎・修学ガイドで設定した目標」の達成度については「1年次生」から「3年次生」に聞いている。
- まず全体で見ると、「達成率80%以上」は3割、「達成率60%」は5割、「達成率20%未満」は2割程度と、前出の「学生の行動目標」と似た結果であった。
- 学年別に見ると「2年次生」の達成度がやや低めであり、「1年次生」が高い。この点も「学生の行動目標」の達成度の結果とほぼ同じ傾向であった。



< 9-1 > 勉強への取り組み姿勢と授業満足度との関係

- これまでの調査より、大学に対する満足度には「授業」の内容が大きく影響していることが分かっているが、その指標として「勉強への積極性」と「授業の満足度」から学生を4つのグループに分けて特徴を見た。
- まず、「勉強に積極的で授業の満足度が高い」という、最も良い状態にある学生を「積極・満足型」とした。ここに当てはまる学生は全体の38.2%であり、最も多かった。
- 次にBとして「勉強には積極的でないが授業の満足度は高い」というグループが16.6%であり、「消極・満足型」とした。このグループは恐らく教員の指導で引っぱられているグループだと思われ、満足度が低いことからそれほど大きな課題はないと言える。
- Cは「勉強に積極的であるが授業の満足度は低い」というグループであり、全体の18.7%を占めていた。このグループの学生は積極的に勉強に取り組んでおり、前向きな姿勢が感じられるが満足度が得られないというものであり、理由としては「授業のレベルが期待はずれ」というケースや「頑張っても授業についていけない」というケースが考えられ、最も注意してケアすべきグループであると言える。
- 最後のDは「勉強に積極的ではなく授業の満足度も低い」というグループであり、26.5%を占めていた。このグループはそもそも大学生としての心構えや意識を持っているのかも疑わしいと言える。



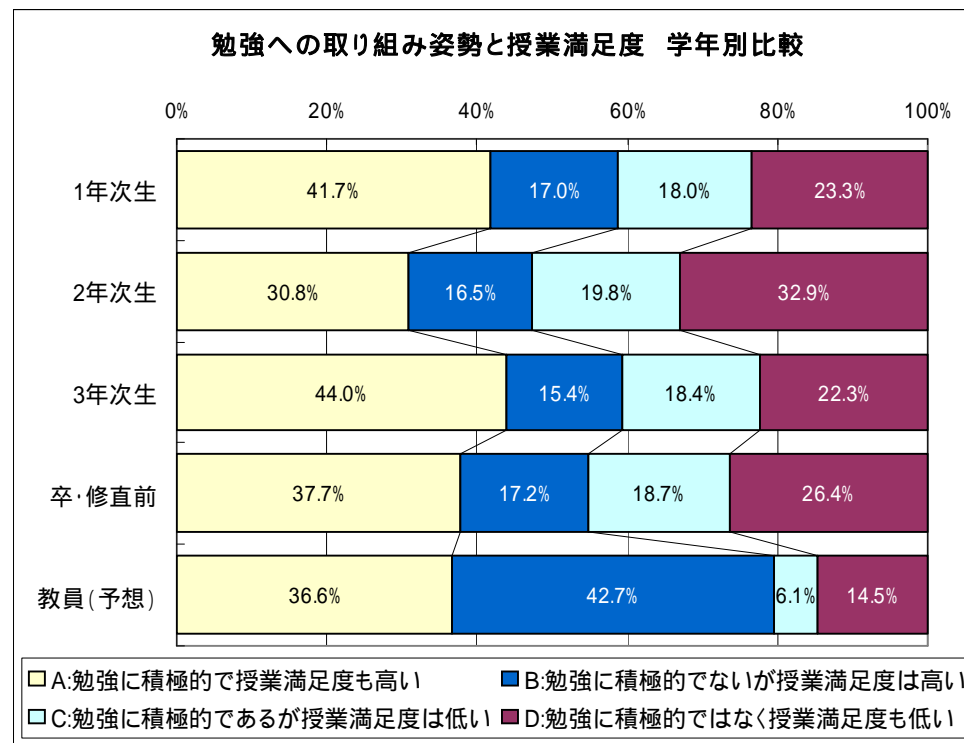
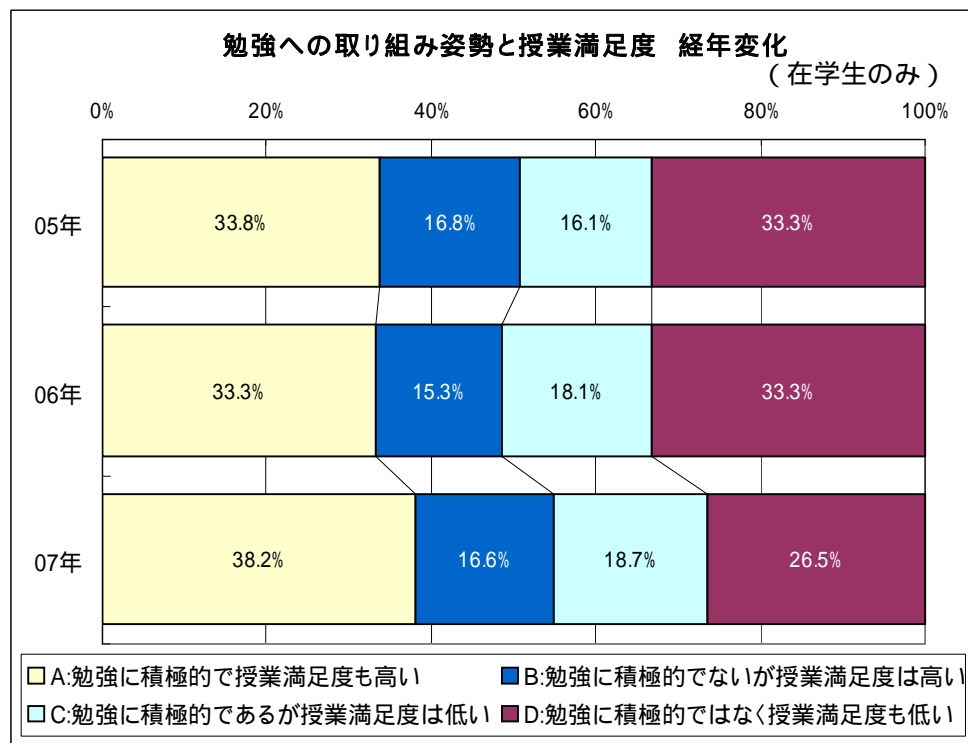
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	38.2%	<ul style="list-style-type: none"> 勉強に積極的で授業の満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。 	積極・満足型
B	16.6%	<ul style="list-style-type: none"> 勉強には積極的でないが授業の満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをするまでの必要もないと思われる。 	消極・満足型
C	18.7%	<ul style="list-style-type: none"> 勉強に積極的であるが授業の満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。 	積極・不満型
D	26.5%	<ul style="list-style-type: none"> 勉強に積極的でなく授業の満足度も低い。 大学生であるという意識を持っているのかも疑わしい。 	消極・不満型

教員の指導によって引っぱられている学生群

頑張っているが満足度が低い。
注意してケアすべき学生群

< 9-2 > 勉強への取り組み姿勢の属性別比較

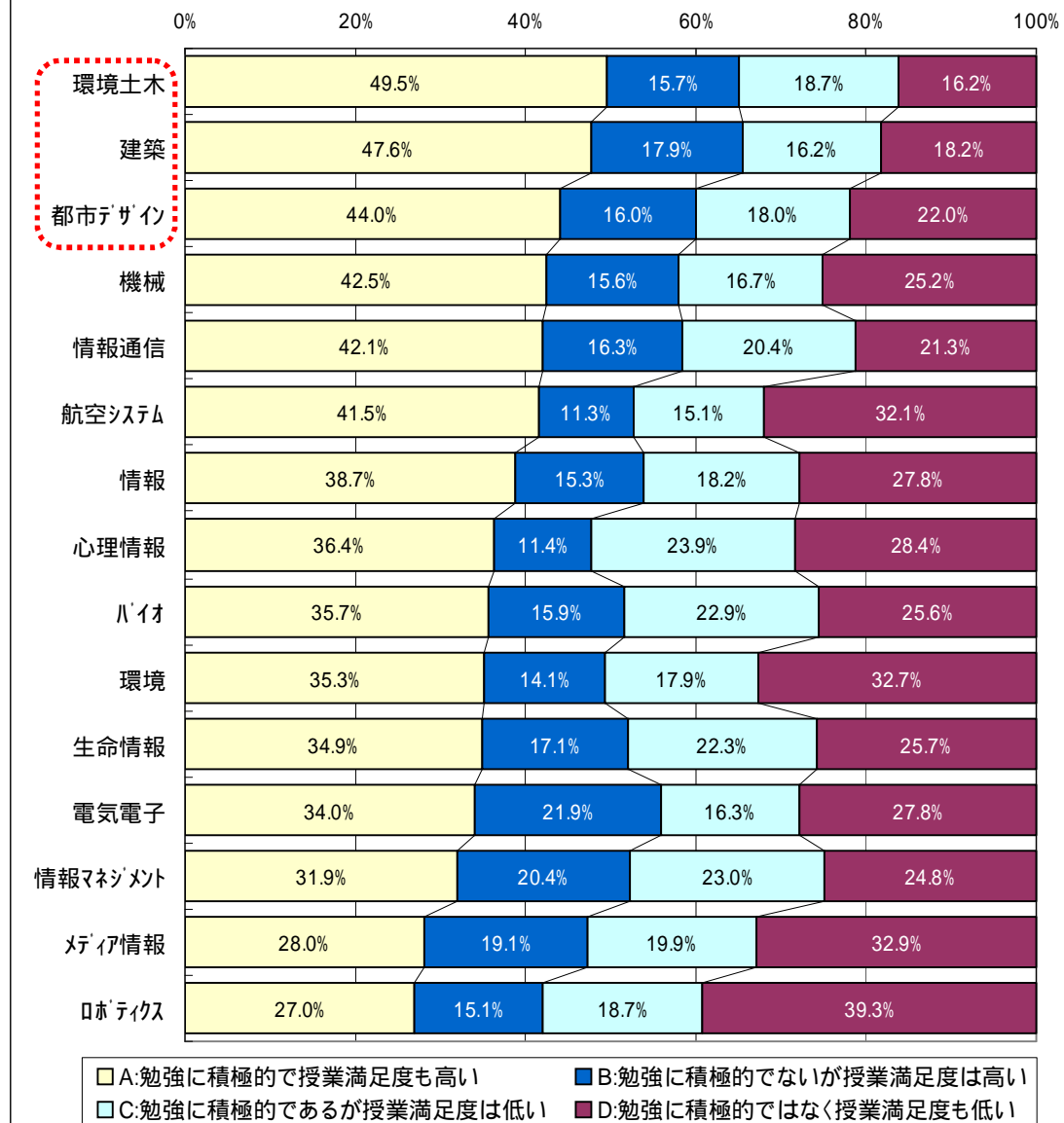
- 前項の指標の経年変化を見ると、05年から06年にかけてはほとんど変化がなかったが、06年から07年にかけては「A：積極・満足型」が4.9ポイント増加し、「D：消極・不満足型」が6.8ポイント減少しており、非常に良い方向に変化していると言える。
- 「KITの満足度」も05年から06年は横這いで、07年には「満足(49.5%)」が「不満(46.5%)」を上回る結果となっていたが、ここでも同様な結果が確認できた。これを見ても「授業満足度」が「KITの満足度」と関連していることが分かる。
- 学年別の比較で「A：積極・満足型」の割合を追ってみると、「1年次生」と「3年次生」で高く、「2年次生」と「卒・修直前」で低いという傾向が見られた。そして、教員に引っぱられている「B：消極・満足型」は15%～17%程度で学年による差はなく、課題だと思われる「C：積極・不満足型」も18%～20%程度で学年による差はなかった。
- そして、「D：消極・不満足型」はやはり「2年次生」で非常に多く、「卒・修直前」もやや多めであり、「KITの満足度」と同じような結果であった。
- 「教員」には「学生がどのように感じていると思うか」という予測を聞いたものであるが、「A：積極・満足型」は学生の自己評価とほぼ同じであり、「勉強に積極的であり授業に満足している学生は36.6%程度」と考えているようであった。一方、学生の自己評価と教員の予想が大きく食い違っていたのは「B：消極・満足型」であり、教員は「教員の指導で学生を導き、結果として授業の満足度は高い」と考えているようであったが、学生はそのようには感じていないようであり、残念ながら授業の満足度は教員の予想よりかなり低いという結果であった。



< 9-3 > 勉強への取り組み姿勢の学科別比較(1～3年生)

- 学科毎の指標の比較は、1年次生～3年次生を一緒に集計し、「A:積極・満足型」の割合でソートしている。
- 最も「A:積極・満足型」が多かったのは「環境土木」であり、49.5%と半数が勉強に積極的に取り組み、授業の満足度も高い状態にあり、非常に充実していると言える。そして、「建築」「都市デザイン」が続いており、「環境・建築学部」の充実が目立っていた。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少なかったのは「ロボティクス」であり27.0%という少なさであった。これは「環境土木」と比べると22.5ポイントの差があり、学科による学生の状態の違いが非常に大きいことが分かる。
- 次いで低かったのは「メディア情報」「情報マネジメント」「電気電子」であった。
- その他のグループを見ると、「A:積極・満足型」の多少と「D:消極・不満足型」の多少とは相関関係にないようであり、学科によってかなり差が見られた。この辺りは次項で細かく見るが、「ロボティクス」で「D:消極・不満足型」が最も多く、「メディア情報」「環境」「航空システム」と続いていた。
- 「航空システム」は「A:積極・満足型」が決して少ないわけではなく、「A:積極・満足型」と「D:消極・不満足型」の両端が多いという特徴が見られ、ほとんど同じ講義だと思われるが同じ学科の中で学生の勉強への取り組み姿勢が大きく2つに分かれるという状況があったようである。

勉強への取り組み姿勢と授業満足度 学科別比較(1～3年生)

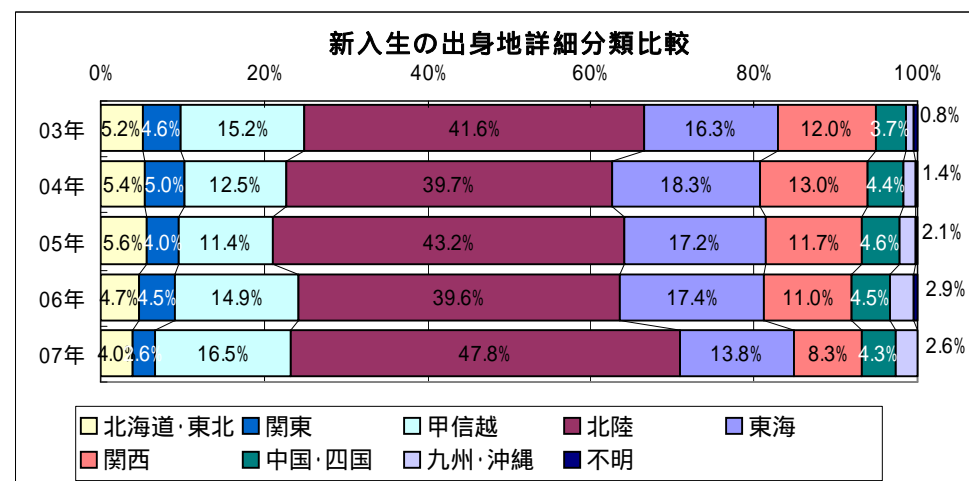
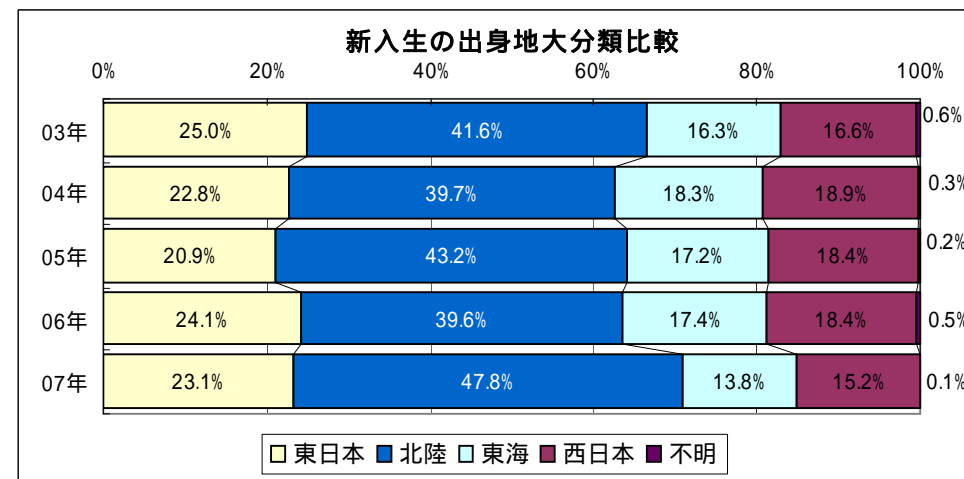


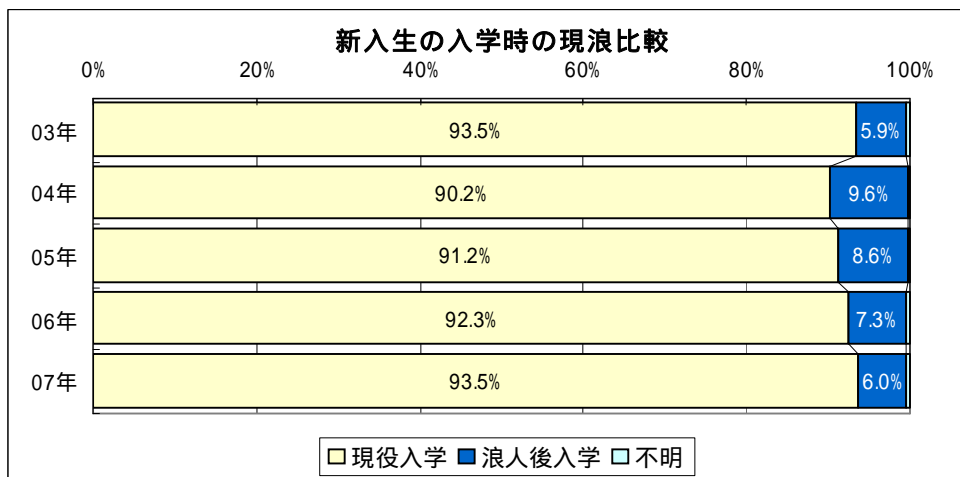
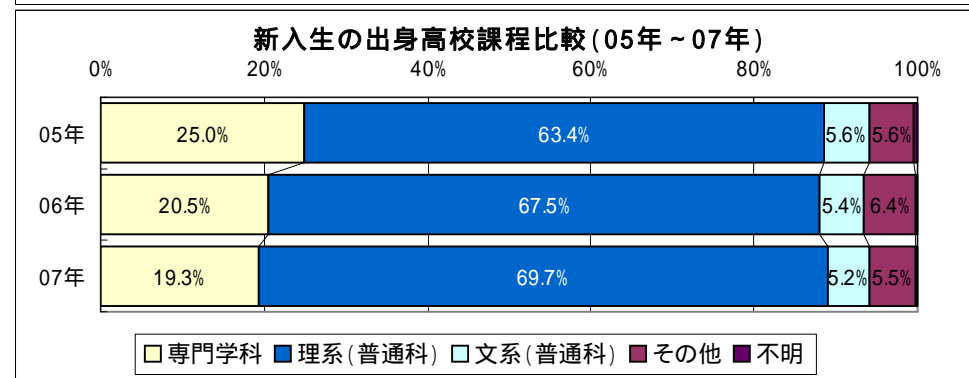
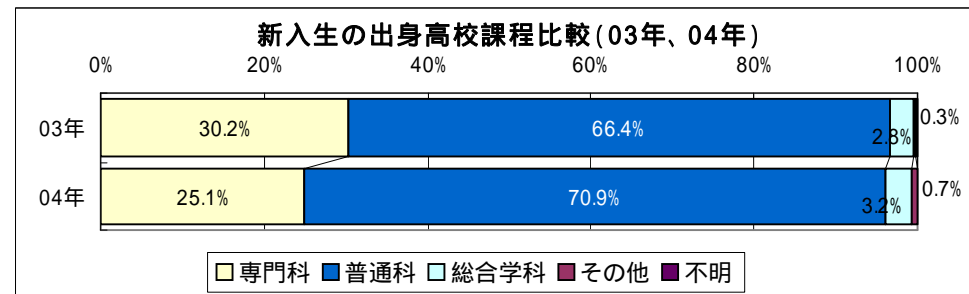
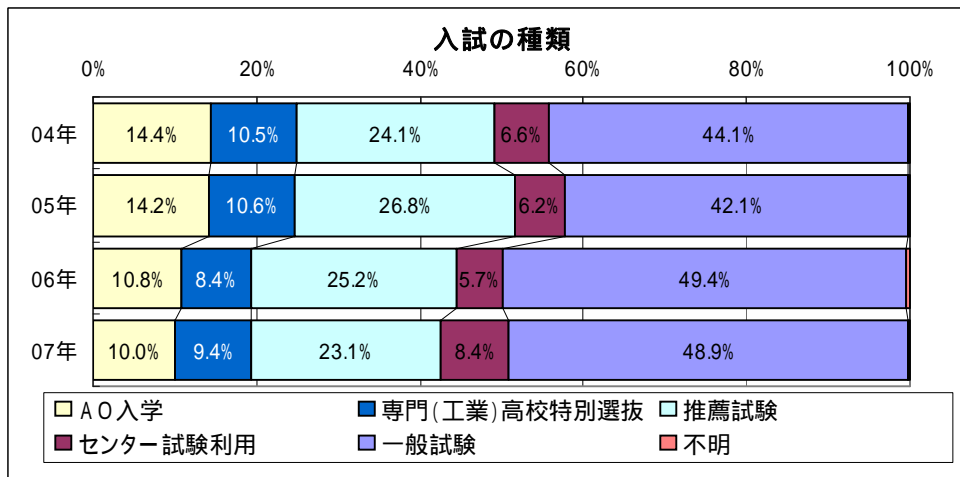
< 10-1 > 新入生のプロフィール

- 学科別には「機械工学科」と「情報工学科」が227人(13.8%)と最も多かった。06年と比べると「機械工学科」は増加し、「情報工学科」は少し減少していた。
- 出身地では「北陸」が47.8%と最も多く、06年と比べて8.2ポイント増加していた。そして、03年から見ると「北陸」の割合は最も高まっており、地元志向が強くなっているようであった。
- 次項の入試の種類は06年とほぼ同じであった。経年変化を見ると04年と05年が同じ内容で、06年と07年が同じという結果となっていた。
- 出身高校の課程では「専門学科」が減少して「理系(普通科)」が増加する傾向が見られ、入学者の層も徐々に変わっているようであった。
- 次々項の出身県を見ると、「北陸」の3県は全て06年より増加(富山: 9.7% 12.1%、石川:24.4% 28.6%、福井:5.4% 7.1%)という結果であった。また、減少の大きかった「東海」では「愛知」の減少が大きく 1.7ポイント少なくなっていた。

学科割合

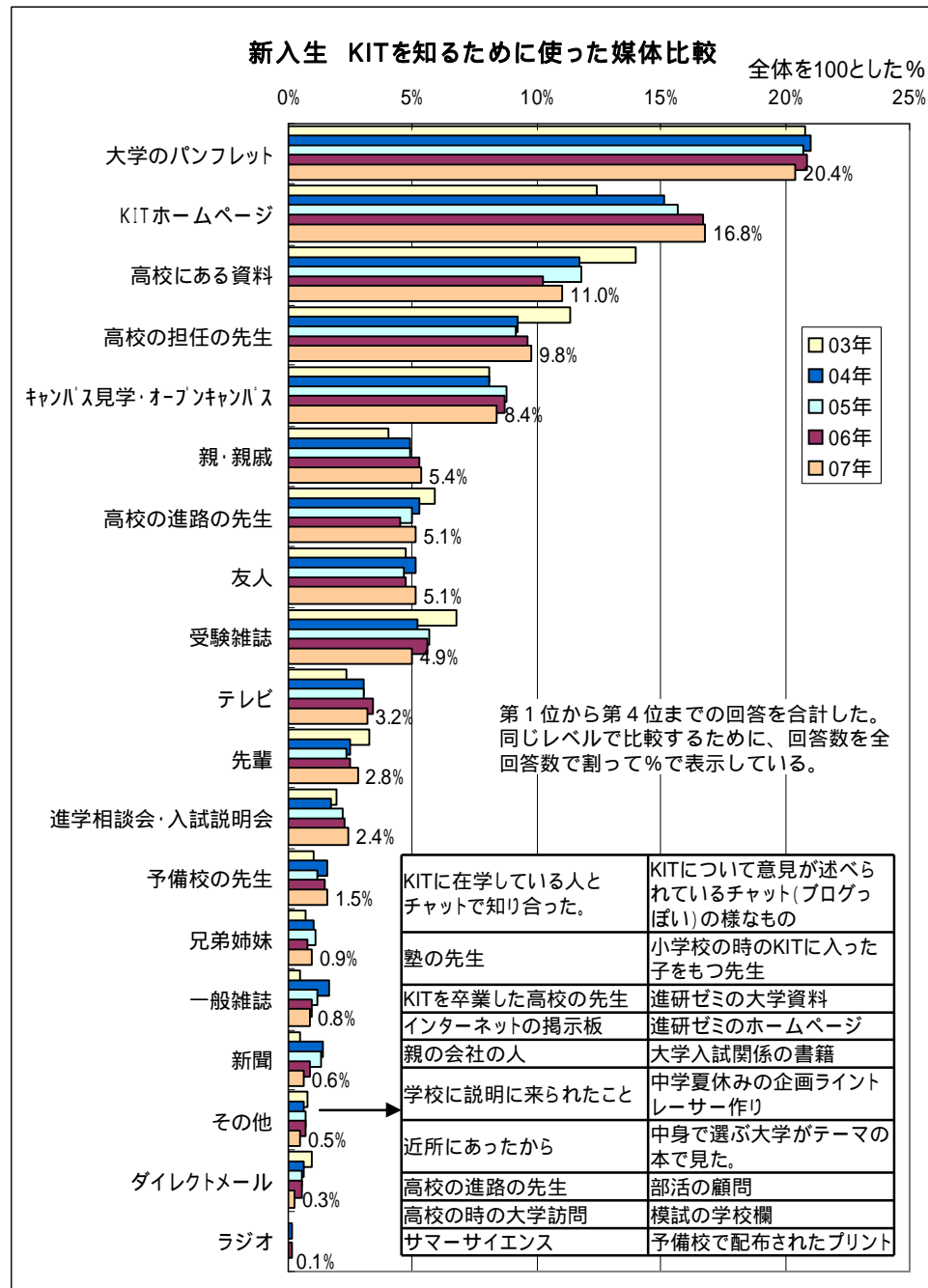
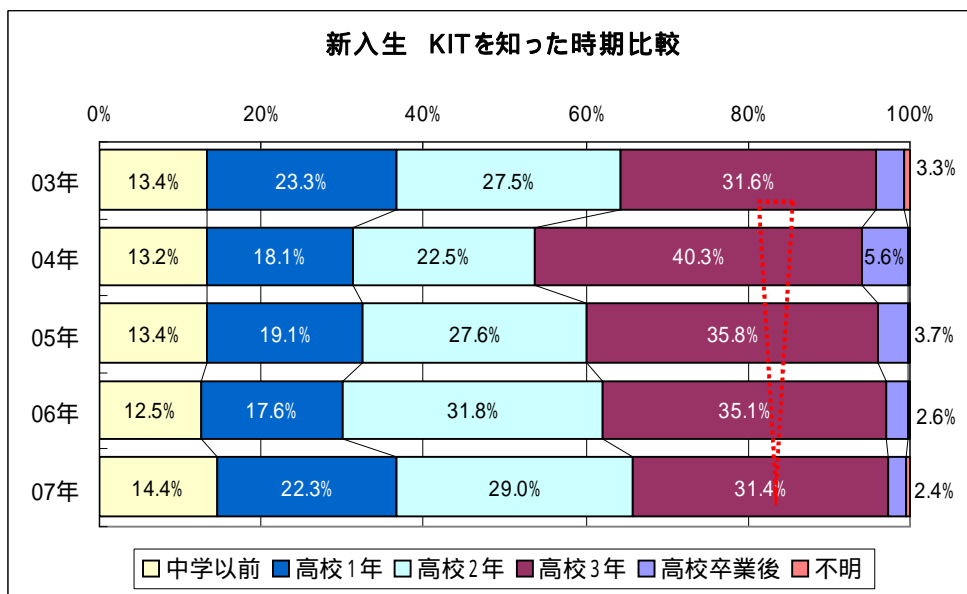
	04年		05年		06年		07年	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
機械工学科	167	10.0%	159	9.9%	163	9.3%	227	13.8%
ロボティクス学科	107	6.4%	114	7.1%	131	7.5%	121	7.4%
航空システム工学科	48	2.9%	56	3.5%	55	3.1%	61	3.7%
電気電子工学科	136	8.1%	118	7.3%	136	7.8%	140	8.5%
情報通信工学科	97	5.8%	64	4.0%	105	6.0%	90	5.5%
情報工学科	232	13.9%	231	14.3%	255	14.6%	227	13.8%
バイオ化学科	97	5.8%	99	6.1%	114	6.5%	74	4.5%
環境化学科	64	3.8%	62	3.9%	69	3.9%	59	3.6%
環境土木工学科	132	7.9%	116	7.2%	119	6.8%	80	4.9%
建築学科	131	7.8%	152	9.4%	144	8.2%	175	10.7%
建築都市デザイン学科	86	5.1%	80	5.0%	103	5.9%	87	5.3%
メディア情報学科	114	6.8%	130	8.1%	126	7.2%	130	7.9%
生命情報学科	83	5.0%	76	4.7%	70	4.0%	36	2.2%
心理情報学科	71	4.2%	71	4.4%	75	4.3%	68	4.1%
情報マネジメント学科	65	3.9%	70	4.3%	63	3.6%	48	2.9%
不明	42	2.5%	12	0.7%	19	1.1%	19	1.2%
総計	1672	100.0%	1610	100.0%	1747	100.0%	1642	100.0%

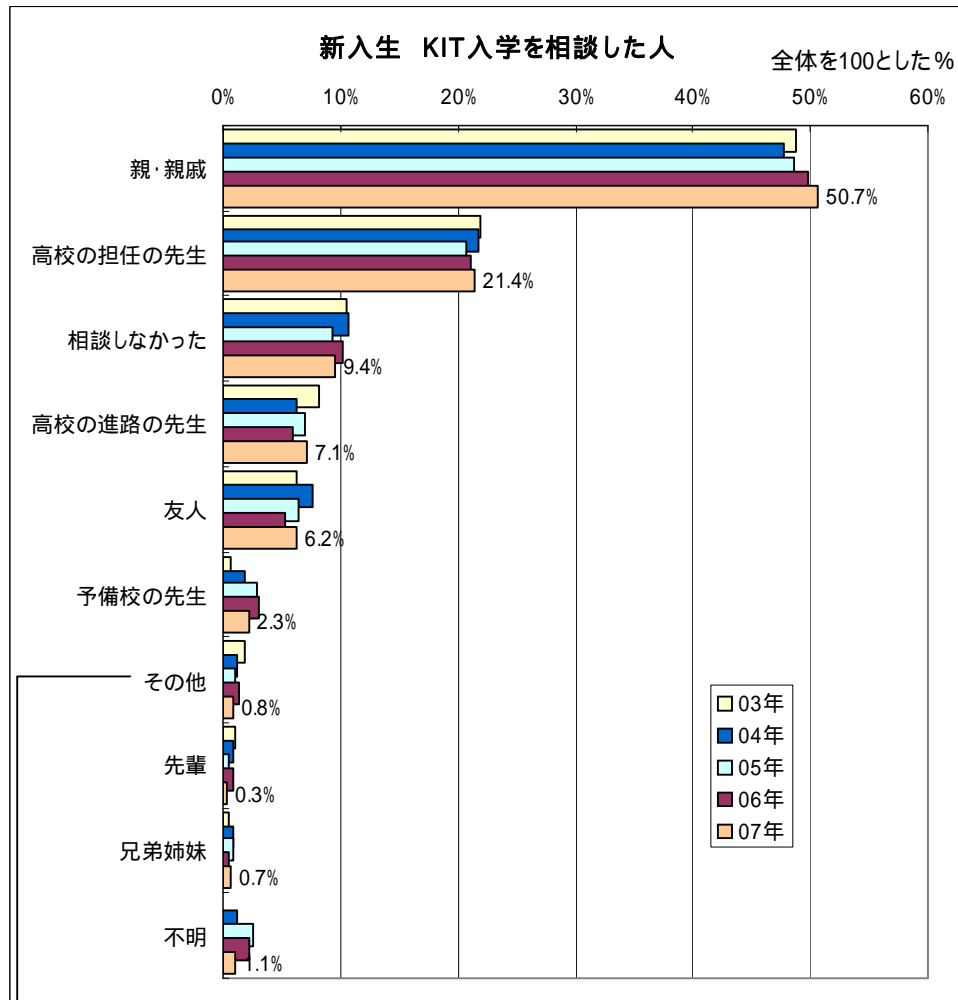




< 10-3 > KITの認知経路などに関して

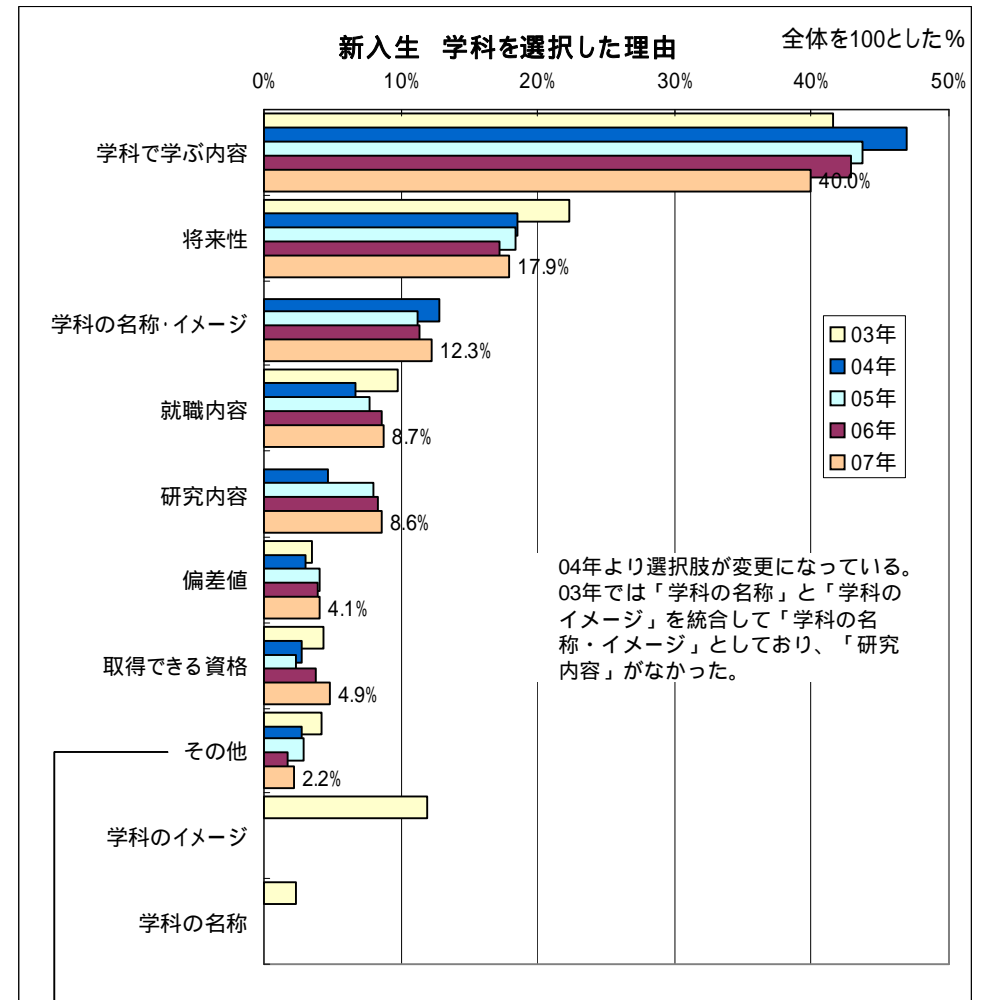
- まず「KITを知った時期」に関しては、07年では「高校3年」が最も多く31.4%、次いで「高校2年」(29.0%)、「高校1年」(22.3%)、「中学以前」(14.4%)という順であった。
- 経年変化では06年よりも「中学以前」「高校1年」が増加し、「高校3年」は3.7ポイント減少しており、KIT認知時期の早期化が進んでいると言える。
- 「KITを知るために使った媒体」は「大学のパンフレット」が最も多く、次いで「KITホームページ」が多かった。順番は昨年までと変わっていないが、経年変化を見ると「KITホームページ」「親・親戚」が継続的に増加しており、「大学のパンフレット」「受験雑誌」などの紙媒体の減少が特徴的であった。
- 次項の「KIT入学を相談した人」では、「親・親戚」が5割を占めており、「高校の担任の先生」の2割と大きな差がついていた。経年変化を見ると「親・親戚」はやや増加傾向にあるが、その他はほとんど変化がなかった。
- 「学科を選択した理由」も1位:「学科で学ぶ内容」、2位:「将来性」、3位「学科の名称・イメージ」といった順位は変わらなかったが、経年変化を見ると「学科で学ぶ内容」を理由とする割合は減少傾向にあり、逆に「就職内容」「研究内容」「取得できる資格」といった、実利的な事柄を理由に挙げる学生が増加しているようであった。





その他の相談相手 (07年)

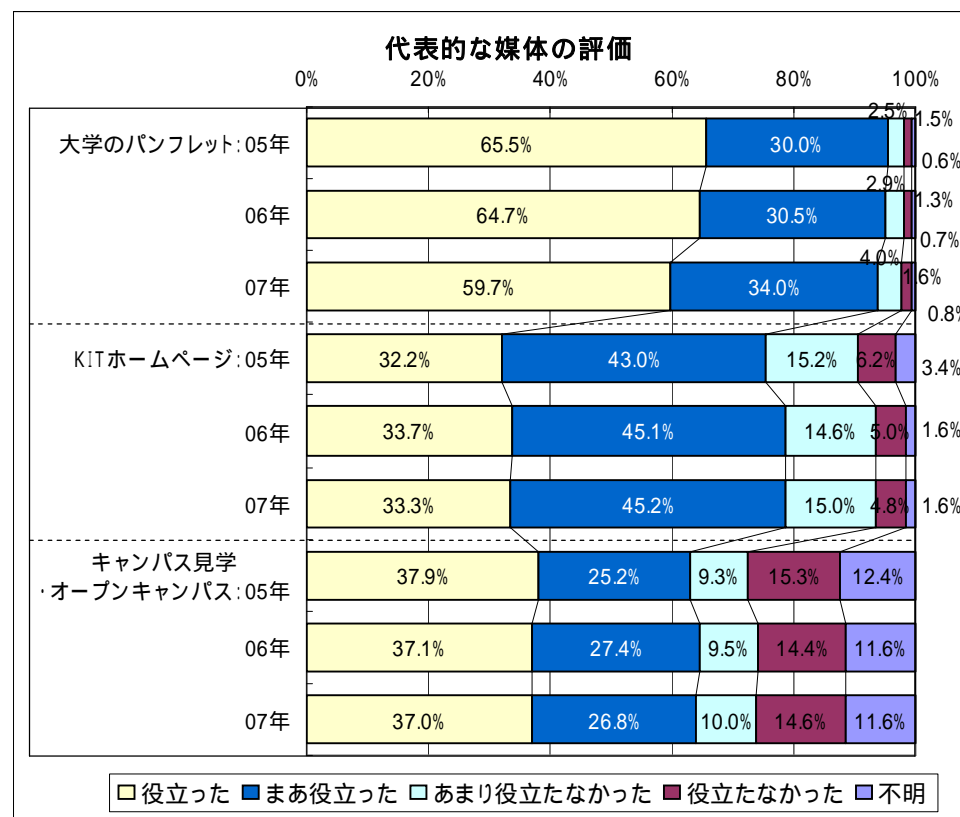
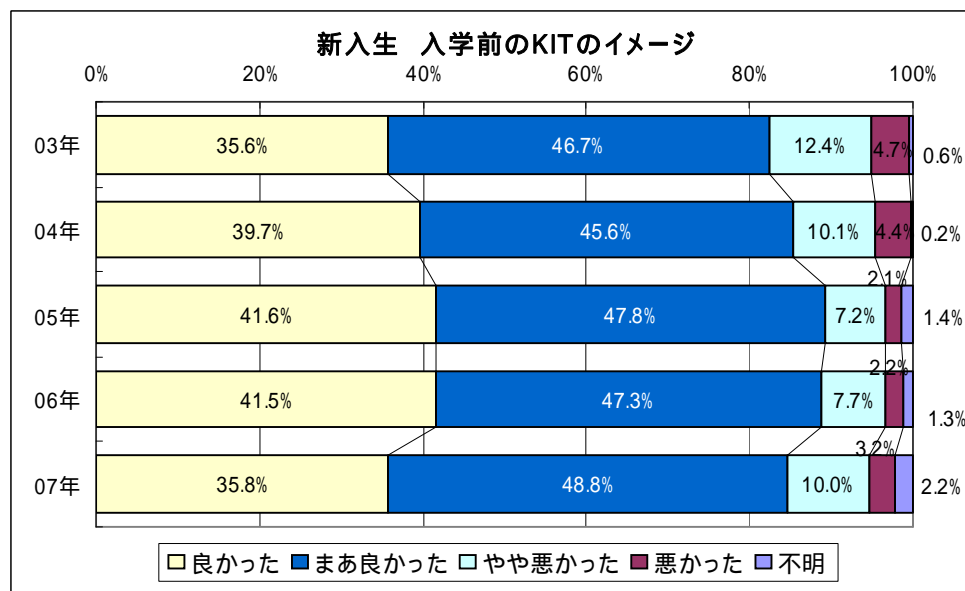
KITを卒業した高校の先生	高校の部活の先生
学年主任	将来なりたい職の専門の先生
家庭教師	仲の良かった先生
工業系の先生でよく話をしている人	予備校のチューター・親・兄弟・友人、 全ての人々。



その他の学科選択理由 (07年)

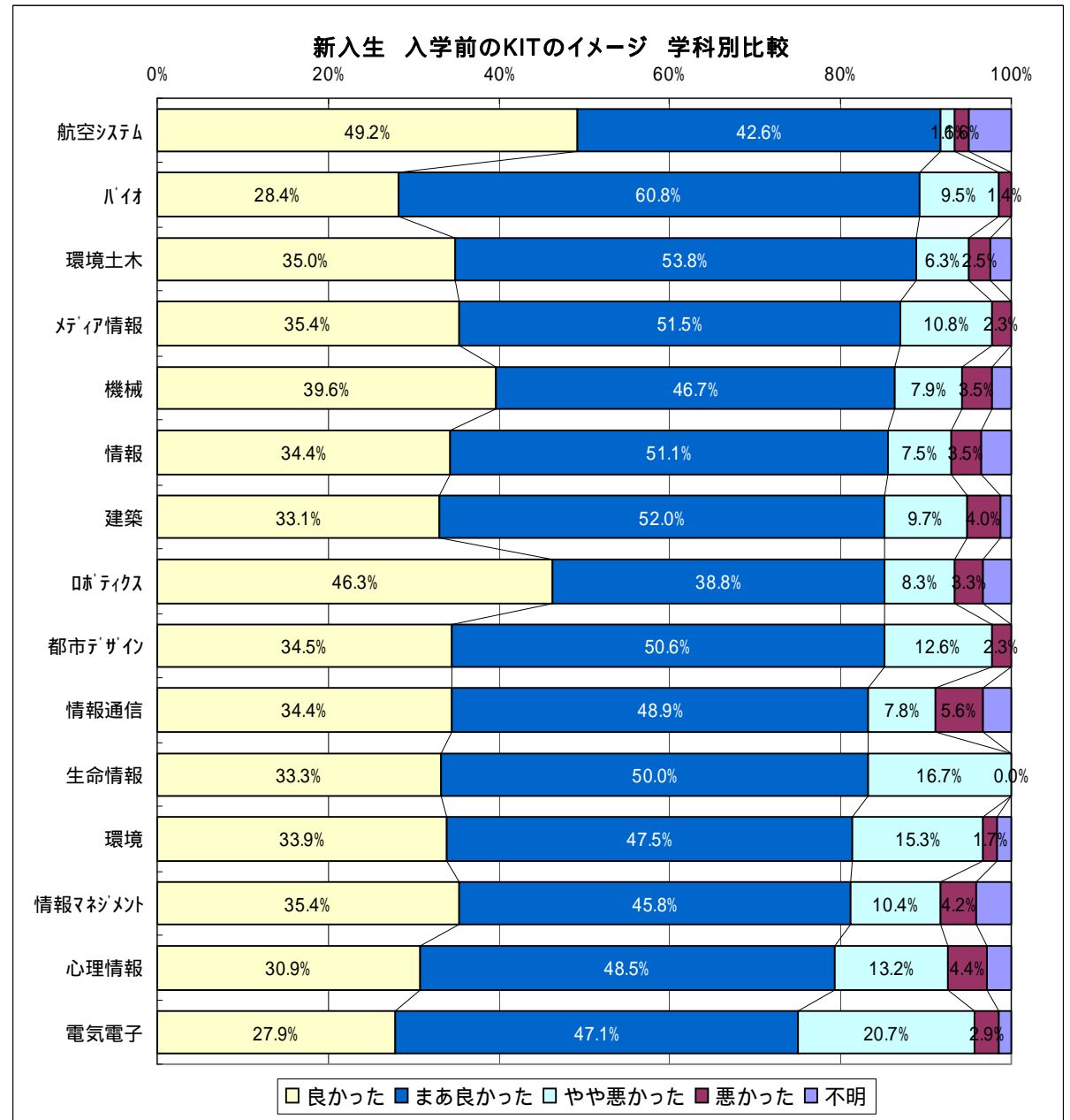
一番化学っぽかったから。	高校で建築科だったから
親が大工であったから	高校で土木を学んだから
家業にあわせた	子供の頃からやりたかったことだから
興味があったため	自分が好きか嫌いか
建築関係が好きだから	多くの技術を学びたいと思ったからです。
建築士になるのが夢だから	就職率の良さ
建築を学びたかったから	趣味

- 07年の入学前のKITのイメージを見ると、「良かった」が35.8%、「まあ良かった」が48.8%で、合わせると84.6%の新入生が入学前に良いイメージを持っていたということであり、この数値自体は決して低いものではないと言える。
- しかし、経年変化を見るとKITに良いイメージを持っていたという新入生は06年から07年にかけて減少しており、その差は4.2ポイントであった。03年から05年までは良いイメージを持って入学してくる学生の割合が増加していたが、06年にかけては横這いとなり、今回の減少につながっていた。良くないイメージを持った新入生がそれほど多いわけではないが、増加しているという点が気になる点である。
- KITの受験を考える際に見る代表的な媒体の評価を聞いたところ、「パンフレット」が最も役立っており、93.7%が役に立ったと感じていた。次いで「ホームページ」「キャンパス見学・オープンキャンパス」の順となっていた。ただし、「役に立った」だけを見ると「ホームページ」より「キャンパス見学・オープンキャンパス」の方が多く、「キャンパス見学・オープンキャンパス」は利用者のみ限定していないため比較できないが、利用者からの評価を考えると「ホームページ」よりも高いということが考えられる結果であった。
- 経年変化を見ると「パンフレット」はわずかずつであるが評価が下がってきていた。一方、「ホームページ」は05年から06年に評価が上がり、07年は横這いという結果であった。「キャンパス見学・オープンキャンパス」の評価はほとんど変わっていなかった。

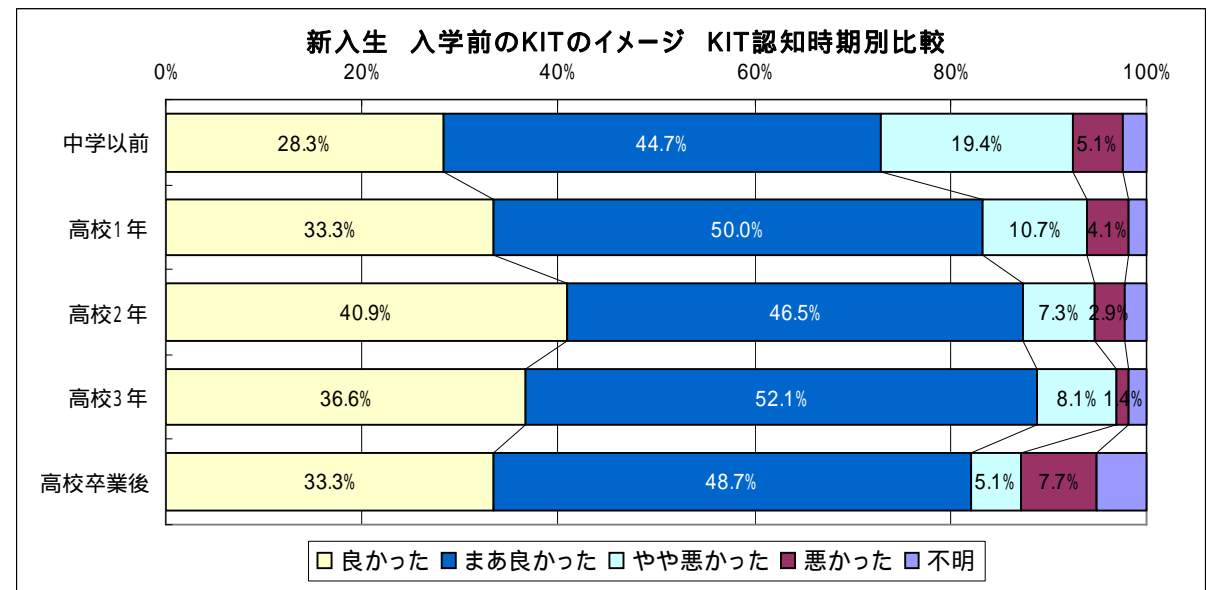
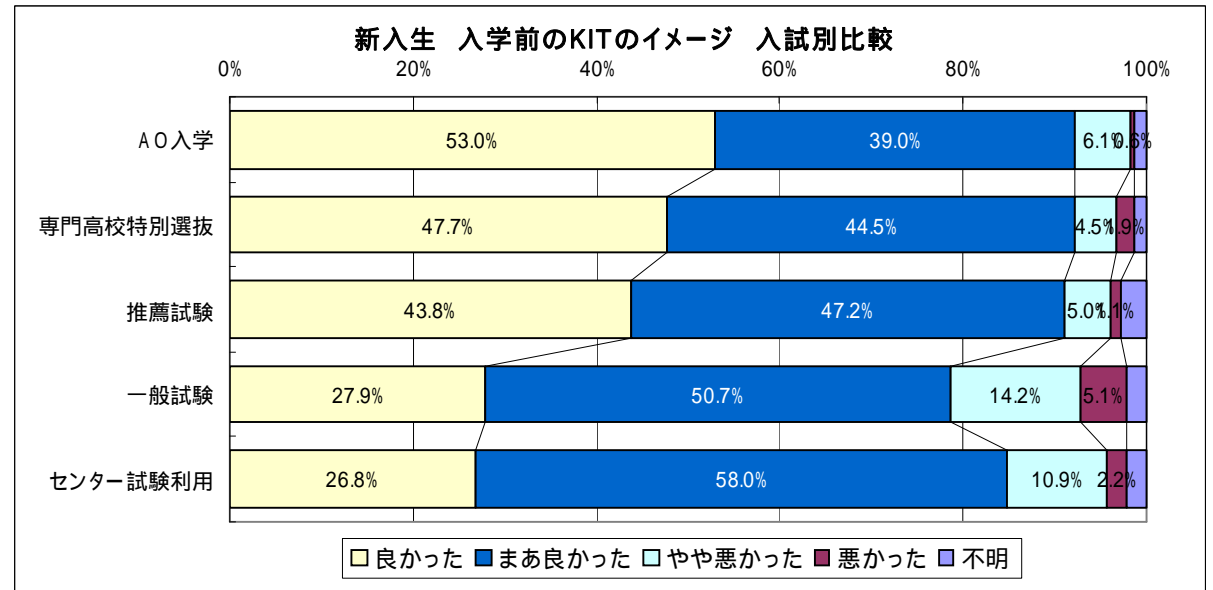


< 10-4 > 入学前のKITのイメージ 属性別比較

- 入学前のKITのイメージを所属する学科別に比較し、「良かった」「まあ良かった」の合計で並べ替えている。
- 事前のKITイメージが最も良かったのは「航空システム」であり、これにはKITに対する期待も表れているものと思われる。次いで「バイオ」「環境土木」「メディア情報」「機械」と続いていた。
- 全体の中で特徴的であったのは「航空システム」で、「良かった」が多かった。それと同様に「ロボティクス」でも「良かった」が多かった。この2つの学科は学科名から内容がイメージしやすく、新入生も具体的で大きな期待を持っているために、このような結果になったのではないと思われる。
- 「機械」にも上記の2学科と似た傾向が見られ、「航空システム」「ロボティクス」「機械」には目的意識が明確な学生が入ってきているとすることができるのではないと思われる。
- 一方、KITに対するイメージが良くなかったのは「電気電子」「心理情報」「情報マネジメント」などであった。特に「電気電子」の低さが目立っていた。理由としては他の大学の「電気電子」学科との難易度の差などが考えられる。

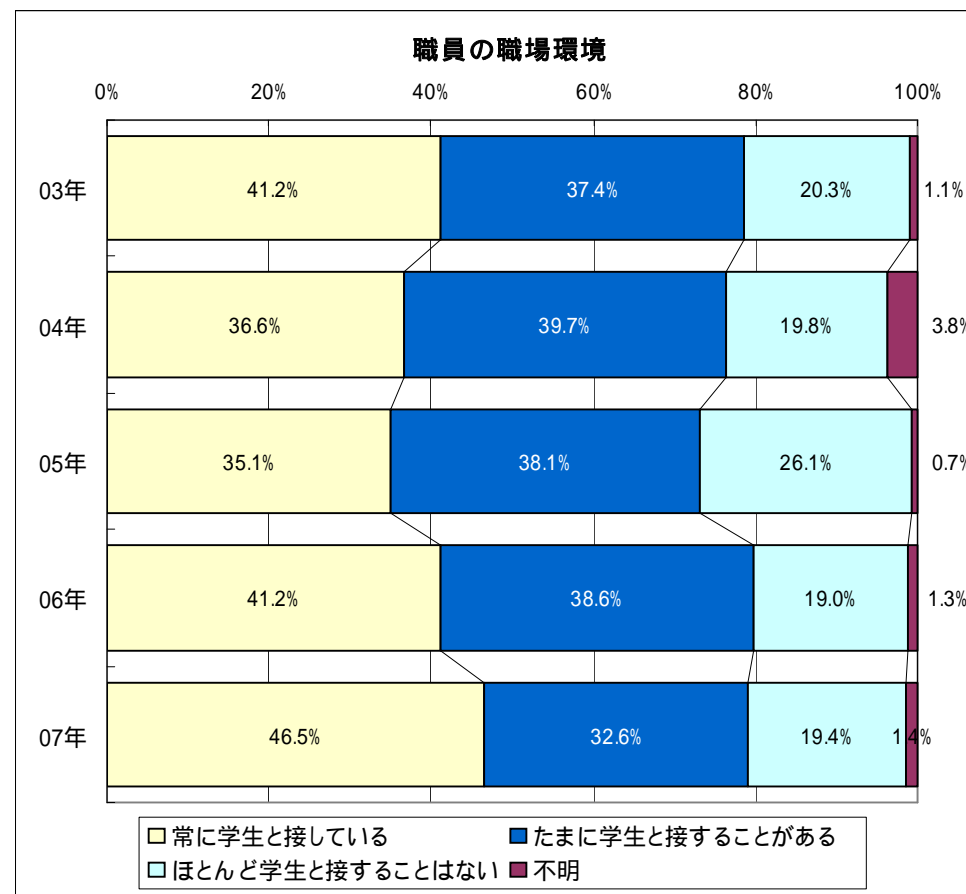
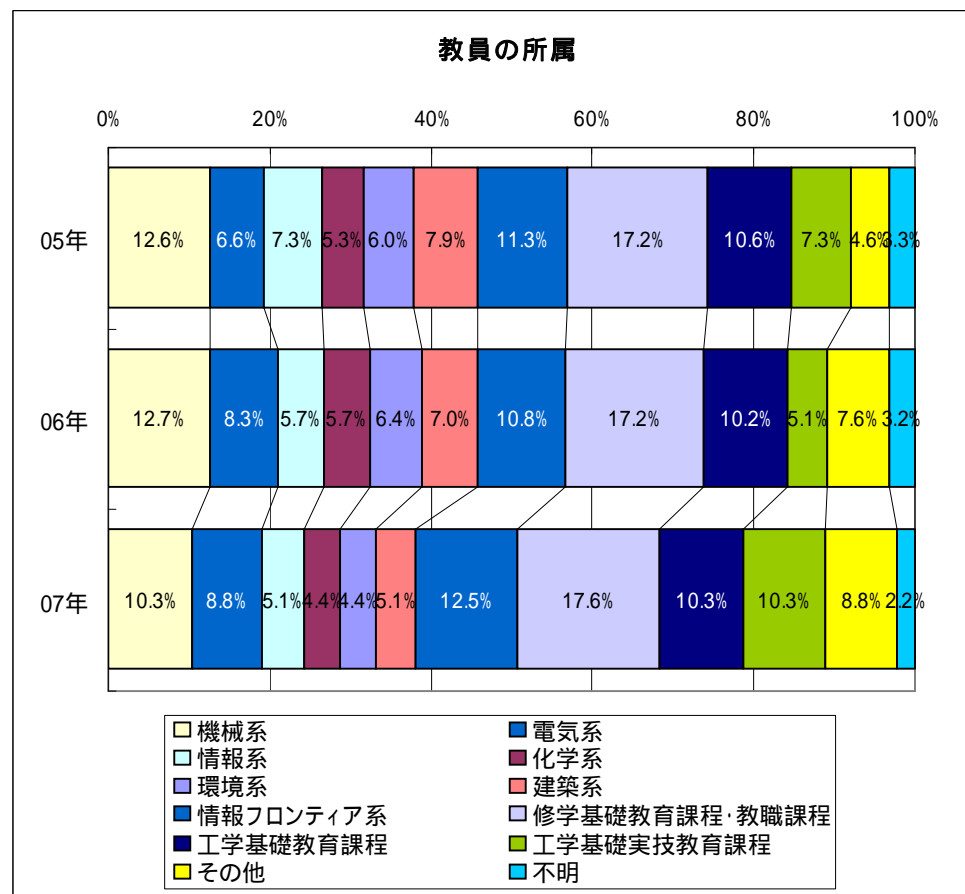


- 入試の種類別に入学前のKITイメージを比較すると、「AO入学」が最も良いイメージを持っており、「専門高校特別選抜」「推薦試験」「センター試験利用」「一般試験」という順にイメージは低下していた。
- 「AO入学」「専門高校特別選抜」「推薦試験」といった事前選抜では志向性が高いために良いイメージを持っており、「一般試験」「センター試験利用」といった試験での入学生は併願があるため少しイメージが下がるという構造があると思われる。
- KITを認知した時期によってどのように事前のKITイメージが異なるかを確認したところ、「良かった」と「まあ良かった」を合わせると、高校3年の時点でKITを知った学生が最も良いイメージを持っていた。
- 認知時期が早くなるほど入学前イメージが低下する傾向が見られた。これらは、中学以前をはじめとして低学年の段階でKITを認知した学生は、入学を前提とした情報収集ではないため、単なる噂やマイナスとなる情報も合わせて聞いている可能性も高く、それによって良くないイメージを持つようになるケースなどがあるためではないかと思われる。
- 高学年では最初に接するのが入試関連情報であるため、しっかりとしたパンフレット類から確実な情報を得て良いイメージを抱くようになっていないかと思われる。



< 11-1 > 教職員のプロフィール

- 教員の07年の所属としては、「修学基礎教育課程・教職課程」が17.6%と最も多く、次いで「情報フロンティア系」が12.5%、「機械系」「工学基礎教育課程」「工学基礎実技教育課程」が共に10.3%という割合であった。
- 教員の所属の経年変化を見ると、継続的に増加していたのは「電気系」と「その他」であり、「修学基礎教育課程・教職課程」は05年から06年は横這いで07年に増加していた。また、06年からの増加を見ると、「工学基礎実技教育課程」と「情報フロンティア系」の増加が目立っていた。
- 職員の職場環境では、「常に学生と接している」が46.5%と最も多く、「たまに学生と接することがある」の32.6%と合わせると、ほぼ8割が学生と接する職場であるということが分かる。
- 職場環境の経年変化を見ると、05年より「常に学生に接している」の割合が増加してきている。ただし、「たまに学生と接することがある」が減少傾向にあるため、学生と接する職員の割合は06年以降はあまり変わっていないが、職員と学生のコミュニケーションは密になっていると言えそうであった。

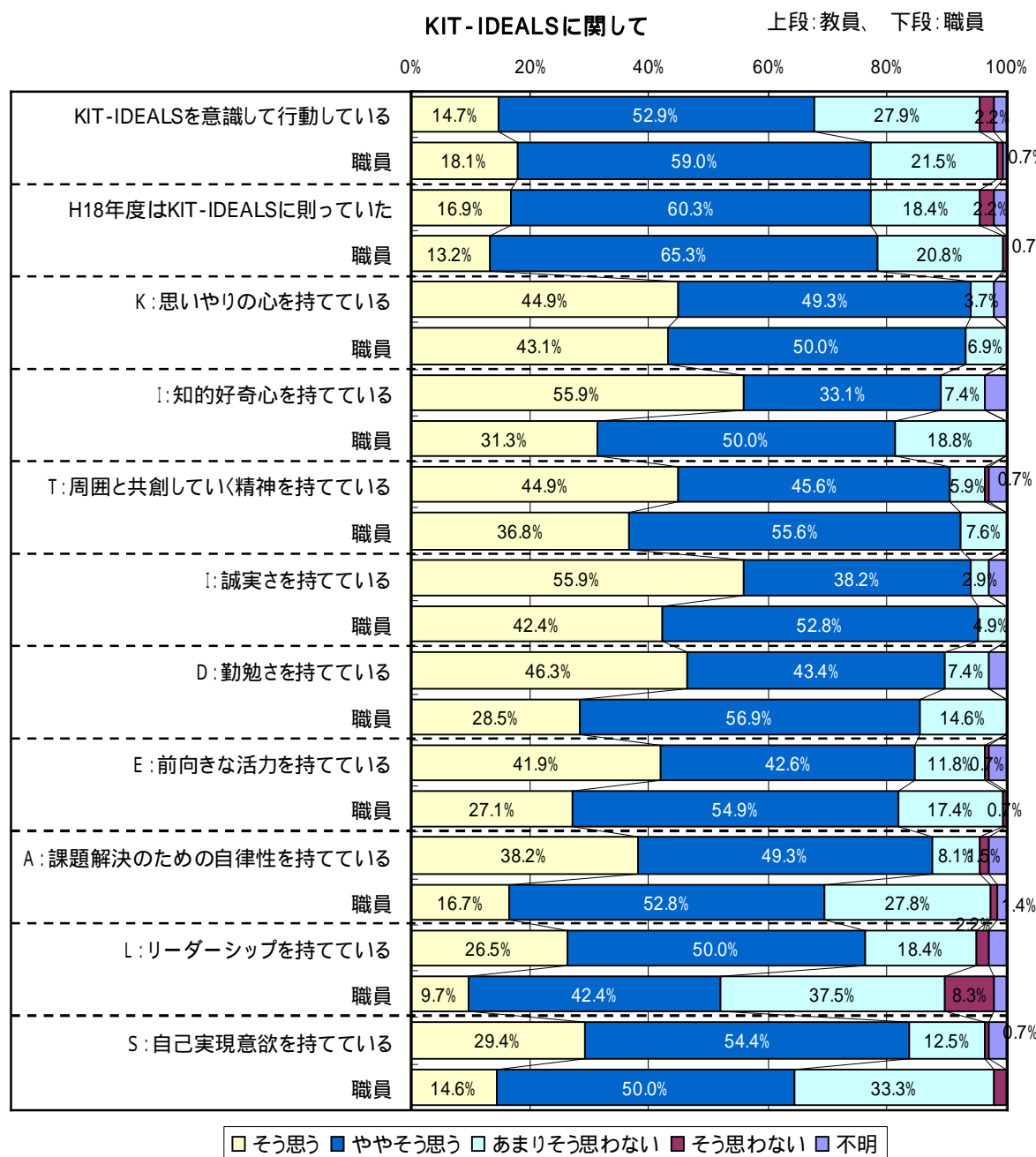


< 11-2 > KIT-IDEALSに関して

- KIT-IDEALSに掲げられた行動規範にどれだけ則って行動できたかを確認した。グラフの各項目の上段は教員で、下段は職員の結果となる。
- 全体の傾向として、「そう思う」と「ややそう思う」を加えた割合で見ると、教員、職員共に「K:思いやりの心を持っている」「T:周囲と共創していく精神を持っている」「I:誠実さを持っている」などのスコアが高く、周囲と協調しながら誠実に仕事を進めている姿がうかがえる。
- 一方、低かったのは「L:リーダーシップを持っている」「S:自己実現意欲を持っている」などであり、自分を前面に打ち出すといった動きは苦手なようであった。
- 「KIT-IDEALSを意識して行動」「H18年度はKIT-IDEALSに則っていた」の2点は、8割程度が意識していたようであった。これは決して低い数値ではないが、行動規範として掲げているということを考えると、より100%に近づくことを期待したい点であった。
- 教員と職員の意識の差は下表にあるが、「KIT-IDEALSを意識して行動」「KIT-IDEALSに則っていた」「T:周囲と共創」「I:誠実さ」の4点は職員のスコアの方が高かった。それ以外は教員の方が高く、特に「L:リーダーシップ」「S:自己実現意欲」の差が大きかった。

教員と職員の意識の差（「そう思う」と「ややそう思う」の合計比較）

	教員	比較	職員
KIT-IDEALSを意識して行動している	67.6%	<	77.1%
H18年度はKIT-IDEALSに則っていた	77.2%	<	78.5%
K:思いやりの心を持っている	94.1%	>	93.1%
I:知的好奇心を持っている	89.0%	>	81.3%
T:周囲と共創していく精神を持っている	90.4%	<	92.4%
I:誠実さを持っている	94.1%	<	95.1%
D:勤勉さを持っている	89.7%	>	85.4%
E:前向きな活力を持っている	84.6%	>	81.9%
A:課題解決のための自律性を持っている	87.5%	>	69.4%
L:リーダーシップを持っている	76.5%	>	52.1%
S:自己実現意欲を持っている	83.8%	>	64.6%



< 12-2 > 在学生の分野ごとの現状のまとめ

(1) 授業・学習面に関して

分野	現状	ポイント
授業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 授業で最も満足度が高かったのは「工学設計」で、「コアゼミ」「専門コア科目」「工学専門実験」と続いており、高学年の専門性の高い科目の満足度が高いようであった。「工学専門実験、演習」「専門基礎科目」なども高かった。 ■ 一方、満足度が低めであったのは「工学基礎実験」「工学基礎科目」など、「基礎」と呼ばれるものであり、科目の名称から見ると専門性の高そうな科目の満足度が高く、基礎的な科目の満足度が低いという傾向が見られた。 ■ 「工学基礎科目」「工学基礎実験」は05年に大きく満足度が低下していたが、06年以降は安定している。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 専門性の高い科目の満足度が高く、基礎的な科目の満足度が低そうであった。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在の授業は「専門的な知識が身につく」という点が評価されており、ここでも「専門性」への注目が見られた。また、「新しい分野、テーマの勉強ができる」「AV機器等を用いた授業が受けられる」といった点の満足度も高かった。 ■ 一方、「授業、課題に時間的余裕を持って取り組める」「自己点検授業」などの満足度が低く、時間のなさがうかがえた。 ■ 「実社会でどう役立つのかが分かる」「少人数・ゼミ形式の授業が受けられる」といった点の満足度も低く、課題と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 授業内容では「専門性」や「新しい分野、テーマ」に注目していた。 □ 一方、授業に関して「時間的余裕」「自己点検授業」「実社会での位置づけ」「少人数形式」といった面での不満が見られた。
学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習支援策としては「学習支援計画書」の評価が最も高く、「修学アドバイザー」「オフィスアワー」などの評価も高かった。 ■ 一方、利用者が少ないためだと思われるが「海外研修・留学」の評価が低く、「学内講演会」「QPAポイント」「キャンパスノート」などの評価も低めであった。 ■ 「キャンパスノート」の評価は年によって評価が大きく変わっていた。聞き方を変えた影響も考えられるが、改善すべき点がないか確認をする必要があると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「学習支援計画書」「修学アドバイザー」「オフィスアワー」の評価が高かった。 □ 一方、「海外研修・留学」「学内講演会」「QPAポイント」「キャンパスノート」の評価が低かった。

< 12-8 > 改善の方向性

改善ポイント

セミナー系カリキュラムの見直し	
内容	<ul style="list-style-type: none">■ セミナー系のカリキュラムに真剣に取り組んでいる学生は授業への取り組み姿勢もしっかりしているため、セミナー系カリキュラムの中身を見直し、より多くの学生がしっかりと取り組める内容にする。■ 現在の内容で「積極・満足型」は好循環に入っており、内容的に問題はないと思われる。ただし、セミナーの意図を理解しているかどうか不明であるため、「何のためのセミナーなのか」を意識させ、より多くの学生に真剣に取り組ませるようにする。■ ただし、より「将来像」「目標」を意識し、現在とのつながりを認識させる指導を行うものとする。■ また、低学年に対しては「現在の基礎的な科目が専門科目のどこにつながっているのか」「社会でどのように役立つのか」といった点を強く意識させることが必要だと思われる。■ 同時に、カリキュラムなどが自分の目標に対してどのような位置づけになるのかを意識させ、日々の勉強が将来につながっていることを認識することで積極性を引き出すことができると思われる。
ポイント	<ul style="list-style-type: none">■ 「社会の中での学問、技術、知識などの体系」や「大学での学問体系」などの中で、現在の自分を意識させる必要があると思われるが、そのためには「学習支援計画書」との連動が不可欠であると言え、その見直しも同時に進める必要がある。■ 現在から未来(将来像、目標)がつながっていることを認識させることが最も重要と言える。

改善ポイント

研究室配属の早期化、もしくは教員の里親制度の導入

内容

- 低学年の段階で研究室に仮配属を行う。もしくは教員の里親制度のような制度を導入する。
- 早い時期に研究室や教員との接点を持つことで、自分の選択した学科の最先端の研究や活動に接することができ、理解はできずとも、近くで触れることで期待はずれ感は払拭できるものと思われる。
- 期待はずれ感を感じている「工業高校特別選抜」の学生、「航空システム」「ロボティクス」の学生や能力の高い学生に関しては、早い時期に専門的な分野に触れる機会を提供することができる。
- 教員や研究室の先輩とのコミュニケーションの場を提供することで、サークルなどに属していない学生に大学内でのよりどころを提供する。
- 教員とのコミュニケーションが密となって理解が深まり、教員や4年次生、大学院生などの研究や活動を身近に見ることで自分の将来の目標も定めやすくなると思われる。これによって「専門性の高い授業を受けたい」「少人数の授業を受けたい」「実社会でどのように役立つのか知りたい」といった要望も満たされると思われる。
- 早期に研究室に属することで自分自身の適性を判断する時間を長く持つことができる。

ポイント

- 学生が自分の興味や教員との相性などによって、比較的簡単に仮配属先を変更できる仕組みも組み込んでおく必要がある。
- 学部間の移動をある程度認めることで、適性の自己判断が広い範囲で行え、学生の自主性を尊重できる仕組みとなる。
- 教員の負担が大きくなるため、「オフィスアワー」や「修学アドバイザー」などのサポートの仕組みとの連動が必要になると思われる。

継続的な改善活動のために!
在学生・卒業生・教職員

2007 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

発行日	平成19年8月21日
発行者	学校法人 金沢工業大学
調査票設計・分析	有限会社 アイ・ポイント
編集	金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています